[redacted]

安政五年日本使節の印紀念

三十年前日本紀行

完

ル 3
3287

ル 3
3287

三十年前日本紀行

緒言

予巴里ニ滞在中一日書林ニ行キ二三ノ古書籍ヲ捜索セシニ偶然此書ヲ見出シタリ予ハ望ミタル書ニハアラサレ共珍ラシキ記事アル様見ヘタレハ購ヒ来リテ一読セシニ全ク無益ノ書ニモアラサリシ原書ハ「スリブニール、ザユヌ、アレバザード」ト題シ著者ハ千八百五十七年支那及ヒ日本ニ送ラレタル仏國使節グロ男爵ト共ニ同年五月廿七

昭和十七年五月十日寄
市島謙吉

日トウロレヲ出帆シ喜望峰ヲ経テ香港ニ達シ
英仏聯合兵ノ廣東ヲ陷シ上海ニ至リ太沽ヲ破
リテ有名ナル天津条約ヲ結フノ時ニ隨行シ支
終リテ上海ヨリ日本ニ来リ安政五年ノ江戸条
約調印ノ后上海ニ帰リ「グロ」男爵ニ先ンジテ条
約ヲ携ヘテ出發シスエズ地峡ヲ経テ翌年十二
月廿七日「マルセーユ」ニ着シ、二ケ年間ノ紀行
ナリ
原語ノ意味ヲ直訳スレハ「使節ノ紀念」トイフヲ
適当ナルヘケレモ航海中ト清國ニ関スル紀支

トヲ省キテ日本ニ関スル部分ノミヲ訳シタレ
ハ予私カニ改メテ「日本紀行」ト題セリ各中頗ル
誤解ノ見多シ然レモ始メテ渡来シタル人ノ紀
事ナレハ支情斯クモアルヘキカ世ニ此書ニヨ
リテ幾分カ当時内外ノ情況ヲ知リ予ト共ニ無
益ノ書ニモアラズトシフ人アラハ予ノ望足レ
リ

丁泉居士

三十年前日本紀行

ド、モーリエ著

丁泉居士　訳

第一

日本ヘノ出發、ワンセマンノ海峡、下田碇泊、物貨場、ナモラノ、子タンワノ、カミノ晩食、江戸湾、國務、皇帝ノ死去、大使上陸シテ寺院ニ住ス、役人所、商人所、大君ノ宮殿、江戸市街ノ遊歩、百名ノ付属役人、江戸會議、条約調印、長崎市街、出島ノ荷蘭商館、海軍ノ作ルヘキ日本政府ノ見込、支那商館、上海碇着、

使節日記

オーダレエー艦（本國ヨリ乗リ来レル軍艦ナリ）清國烏淞ニ於テ損所ノ生シ修繕ノタメ廣東ニ回航セリ）ノ近キ内ニ碇泊スヘルトノ望ハ已ニ絶ヘタ追々アシキ季節ニ迫リタレハグロ男爵（清國及ヒ日本ニ送ラレタル使節）ハ九月初旬ニ上海ヲ去リ第二ノ使命ヲ遂ケレカ為メニ日本ニ向テ帆ヲ開クヿニ決定セリ、使節ニ伴フヘキ艦船ハ帝國軍艦ノ内ニ艘即チコルウエット形ル、ラプラマ艦及ビアウイブ」形ル、プレヒヤレ艦ト外ニ臨時ニ借入レタル「ル、レミー」ト称スル小

キ商船ノミ自餘仏國艦隊ニ屬スル諸艦ハ皆ア
ミラルリゴール、ド、ビヌーヌイリイ氏ニ從フテ交
趾支那ニ赴クベキ命ヲ受ケタリ使節トヽ「ド、コレ
ダト氏及ヒ新任ノ訳官僧「メル
メー氏ハ「ラプラス艦ニ「テ、トール、モーブール氏
トレウイズ氏フラウイニー氏及ヒ予モ「ハル、レ
ミイ号ニ乗組メリ此外ニ「カ」ビミル、ルコレト氏
吾ロト全船セリ此人ハ頗敏勇悍ニメ世界ノ國
々ヲ順次ニ遊行シ旅行ノ日月四十年ノ久シキ
ニ亘レ氏未タ嘗テ颶風ニ遭ヒタルフモ從難ニ

ケ、リタルフモ又疾病ニ惱マサレタルフモア
ラズ巴里ノ人道ニテハ度々疵傷セシフアレモ
長途ノ旅中何度ニモ出遇ハストハ最モ好キ星
ニ当レル人ナラン吾々モ此人ト同行スルカラ
ニハ待チ設ケタルフナシ（此地ニアル暴爪ノ
フ）ニモ如ハ勝ツベシト思ヘリ又此人ノ面白キ談
話ハ航海中常ニ免カレ難キ無聊ヲ慰メリ
九月六日（月曜）ハ珍ラシキ好晴ニテ空色ハ朗ニ
清ラカニ風ハ北ヨリ微カニ吹タリ吾々ハ午前
十時ワンプー（上海ノ内）ノ岸ヲ離レテ出帆シ上

海ノ欝陶シク又有言ナル空気ヲ逃レテ海上ノ爽快ナル空気ニ呼吸セリ「ルレミイ」号ノ船長トニ名ノ士官及ヒ機械方ハ西洲ノ人ニテ其他ノ船人ハマレー、インドーステン、黒人又ハ支那人ナリ皆ヲ揚ケ帆ヲ張ルニ「マレー」人ノ悲哀ナル船歌ハ頗ル吾々カ旅愁ヲ増サレメリリ此船ハ「レミイ、レユニド」商社ノ所有ニテ一ヶ月五千五百四ノ割合ニテ借入レタレバ一日ノ借料ハ千法已上ニ当レトモ此辺ニテハ通例ノ値段ナリ吾々ノ船室ハ狭ケレモ都合ハ悪シカラス大横

間ノ空気取リモ好ク出来居レリ只困却ナルハ此船ヲ住家トスルモノ餌リニ多シ蚤、白蟻、赤蟻、「カンクル」(虫ノ名)ナレドハ夜モ晝モ予等ノ座辺ニ彷徨セリ茶ヲ積レテ百日間ニ「ロレドレ」ヘ直航スル「ビヤルゲーヌ」商貪ノ大快駛船ハ吾々ト同時ニ「ヤレツエト」(揚子江)ノ黄濁ナル水ヲ漕キ去レリ吾々ノ乗リタル船ハ器械ノ力弱シ「ル、ラプラス」艦ハ餌リニ後レシフヲ恐レテ吾々ノ船ヲ引ケリ然ルニ数日ノ後最早ヤ其注意ニモ倦ミタリケレ下田ノ港ヲ出発所ト定メント言

棄テ、フル、プレジヤレ艦ト共ニ我船ヲ見棄タリ
吾々ノ船ハ進行鈍ケレ𪜈船長ハ安全ニテ測量
タル海図ヲ繰々ト渡ルメリ風ハ生憎逆風ナレ
𪜈天氣ハ始終晴タリキ気候ハ恰モ仏蘭西ノ初
十月ノ取合ナリ水ヤ空空ヤ水眼モ遠カナル地
平線ハ尽ル所ヲ知ラスシテ微カニ南ニ北東ヨ
リ寄セ来ル波ハ船ノ進ミヲ妨ケカゲナレ𪜈限
リナキ島々ノ景色眺メツヽ無聊ニ「ワレゼマン」
ノ海峡ヲ越ヘタリ支那海ヲ去リテ大洋ニ入リ
タルハ九月九日ニテ今十四日午前十時即チ丁

度九月振リニテ碇ヲ下田ノ港ニ投セリ、ル、テプ
ラマ艦、ル、プレジヤレ艦ハ昨夜已ニ到着シテ吾
々ヲ待チ居レリ
下田ノ港ハ小サク狭シ幸フレテ五六艘ノ船舶
ヲ一度ニ入ル、コヲ得ヘシ然レ𪜈南西ノ稍々
開ケタル部分ヲ除キテハ誠ニ安全ニ誠ニ風除
ケノ好キ港ナリ市街ハ一ノ村落ニ過キス僅カ
ニ波除ケヲ築キテ大潮ノ侵入ヲ防キタルマテ
ナリキ國ノ風景ハ温雅快闊世界ノ最モ美麗ヲ
尽シタルモノトヤ云ハン童畳タル山ハ天涯ニ

超代ニ鮮妍タル植物ハ海岸マテ繁茂シテ其海
中ニ散布セル岩ノ上ハ一面ニ松ニテ蔽ハレタ
リ此ノ如キ天然ノ美景ノ間ニ彼所此所ニ段ヲ
ナシテ水田アリ又清麗ナル谷間ニハ渓流アリ
火山又ハ火山ノ作用ニテ断続セル諸山ノ種々
ノ形状ノ上ヲ和ラカニ照ス日光ハ吾々ヲシテ
日々感賞ニ堪ヘザラシメダリ又到ル所快活ナ
ル人民ニ出遇ヘリ家屋ハ小ナレモ清潔ニシテ
便利ト幸福トニ欠クル所ナキモノヽ如シ
若シ清潔ハ一個人ニ於テルカ如ク国民ニ取リ

テモ幸福ノ証拠ナリト認ムルヲ得ハ日本人
ノ如キハ最モ幸福ナル人民トイフベシ日本人
ハ常ニ笑ヲ含ミテ愉快ナル容貌アリ又吾々ノ
親近スルヲ喜ヘリ（支那人ノ反對ヲイフナリ）
見苦シキ襤衣ヲ纏ヒタル「クリイ」ノ群ニ取囲マ
ル、ヲモナシ（「クリイ」トハ人民土方ノ如キ賤
民ヲ云フナリ）婦人モ亦支那ノ如ク改人ヲ見テ
逃ケ隠ル、如キヲモ無シ人民ノ衣服ハ誠ニ軍
簡ナルモノニメ一種ノ巾廣キ衣ヲ着ケ帯ニテ
括レリ然レモ全体ハ甚タ清潔也支那ノ市街ヲ

名ケラ武人ハ汚穢ナル蟻ノ住家ナリト云ヘリ
其蟻ノ住家ナル上海ニ六週間モ居リ毎日「ワン
プー」ノ四方ハ面真平ナル陸地ノミヲ見渡タ
セシ者ガ今日此クノ如クノ土地ニ来リテ如何
ナル感覚ヲ起シタルカハ言ハスシテ世人ノ了
解スル所ナラン
港ノ奥ニ合衆国ノ国旗ノ翻ルハ神奈川条約ニ
ヨリテ駐在スル米国惣領事タウンセント、ハー
リス氏ノ居館也コンモドル、ペルリー氏ハ其ノ
評判ノ高カリシニ拘ラス著シキ遺跡ヲ止メス

却ツテアミラル、プーチヤチヌ氏ノ名ハ最モ好
ク知ラレタリ氏ノ乗リタル露国フレガツト形
ヲ、ヂアナ艦ハ下田ノ港ニテ破船セリ地震ノ結
果ニテ破船セシハ此軍艦ヲ除キテ他ニ例ナシ
艦底ノ下六十尺ノ深サアルカト思ヘハ忽チニ
メ錨ヲ見ルヘキ浅瀬トナレリ夜角スル内ニ怒
濤俄カニ起リテ港内ニ充満シ遂ニ市街ヲ漂ハ
シ野外ニ溢レタリアミラル及ヒ乗組人一同ハ
泳キテ岸ニ達セシガ幸ニ死亡ハ僅カニ十四人
ニ止マレリ乗組ノ大工ハ直チニ着手シテ黒龍

江マテ航スル為メニ小形ノ帆船ヲ製造セシガ
此船ハ遂ニ其用ヲナサス折モ好シ米國ノ大軍
艦上海ヨリ来リタレハ此軍艦ニ乗組シ更ニ安
全ナル道ニヨリテ帰航スルヲヲ得タリ其時製
造セシ小帆船ハ日本人ニ寄付セシ由ニテ港内
ニ繫キアリ今ハ一ノ装飾物トナレリ
下田ニ滞在中日本官吏ヨリ最モ親密ニ最モ丁
寧ナル待遇ヲ受ケタリ下田奉行ナモラノ子ダ
ンワノカミ（京語ノ侭ナリ）閣下ハ使節到着ノ即
日ヲ、プラス艦ニ来リテ大使ヲ訪問セラレタリ

翌々日巳午ニ上陸シテ今度ハ我方ヨリ公然ノ
訪問ヲナセシニ奉行ハ童子タル僚属ヲ率セテ
玄関マテ出デ慇懃ニ吾々ヲ迎接シ又廣キ應接
ノ間ニ導テ茶菓ノ饗應アリ吾々ハ左
ノ方ナル腰掛ニヨリテ坐ヲ占メ奉行及ト其僚
属ハ吾々ニ面シテ踵ヲ重子テ坐シ日本通辞ハ
我通辞傳ンルメ氏ノ語ヲ跪テ奉行ニ言上セリ
暫クアリテ茶及ビ酒ヲ吾々ニ順次ニ薦メタリ
酒ハ米ヨリ製シタル生マ温キ酒精ニメ甚タ強
シ又其色暗褐色又ハ黒色ノ漆ニテ塗リタル茶

椀杭皿类ニテ有豚雞雨水四十種ノ色々ナル食物ヲ饗セリ一般ニ日本ノ料理ハ支那料理ニ類似ノモノヽ如ク見ユレ共其配膳ノ工合調理ノ精密及ト清潔ナルヿニ至テハ支那料理ノ上ニ出ツルヿ萬々ナリ給仕人モ亦大小(刀)ヲ帯ヘリ一品ヲ持来ルコトニ其主派ナルヿ美麗ナルヿ実ニ精巧ヲ極メタルヿニ驚ケリ支那官吏ノ膳部ニテハ決シテ見ルヿヲ得サルモノ也小キ木ヲ花弁又ハ禽獣ノ形ニ造リ立テタルモノアリ海ト海苔ニ似セタル皿ニ巨大ナル蟹ヲ載セタルモノアリ海老ト大根ヲ切合セテ作リタル壯麗ナル花アリ車行ハ笑ヲ含ミテ誇リ顔ニ此花ハ士官等ノ作リタルモノナリト云ヘリ此人々ノ見込ニテハ熟練ナル意匠ヲ示シタル積リナルベケレ共其職務ノ肝要ナルト重大ナルトノ点ヨリ見レハ餘リ高尚ナル説トハ思ハレスサレド萬端ノヿ斯クマテ順序ヨク行ハレ社會ノ運行モナク迅速純ニ動キ又童立タル役目ノ人々カ大根胡蘿蔔海老ノ肉ナレドニテ立派ナル花ヲ作ルヿニ其日ヲ送ルトハ実ニ幸福ナル人

氏トイフベシ此珍ラシキ饗應ノ内ニ大ニ吾々ヲ驚カシタルモノアリ他ニアラスサボテノ菓子ヲ出シタルコトナリ作リ方モ申分ナク味モ亦充分ナリ此菓子ノ日本ニ輸入セシハ西班牙人ノ日本ニ往来セシ時代トノコトナレバ今ヨリ二百年前ナリ如来日本ニテハカスケアヒ（カステラノコトナリカスケアヒトハカスケール語トイフ意ニテ即チ今ノ西班牙語ノコトナリ）ト称シテ今日マテ傳ハレリ

翌々日五午ニ上陸シテ今度ハ我方ヨリ公然ノ

訪問ヲ終リテ后下田ノ物賣場ヲ見廻リタリ此物賣場ノコトニ付テハ特別ニコヽニ記スル價値ノモノアリ抑モ此國ニテ外國人ニ物ヲ賣ルハ政府ノ特權ニ屬シテ一般ノ人民ハ何品タルニ論ナク賣ルコトヲ嚴禁シ犯行者ハ死罪ニ処セラレタ故ニ四ケ國ノ軍艦（美米仏蘭）下田ニ至ルト聞キ日本ノ其筋ニテハ大ナル仮屋ヲ作リ日本ノ産物ニテ外國人ノ嗜好ヲ引クヘキモノハ総テ物賣場ニ陳列セリ故ニコノ物賣場ニハ種々様々ノ色又大サニ作レル机アリ物ノ値段ハ総

テ此國ノ通用貨幣一歩ヲ以テ定メ「アラビヤ數
字」ニテ一々定價ヲ記シ置ケリ又物品ニハ悉ク
フレニ對スル向木ノ箱アリテ買フヤ否ヤ箱ニ
入レテ直様船ニ送リ出セリアヽコノ玉瓜ナル
見エヨキ珍ラシキ沢山ノ品々ヲ巨里ノ貴婦人
ニ示レタラレニハ如何ナル感賞ノ声ヲ放ツナ
ラレト使節モ書記官モ書記生モ士官モ水夫モ
皆ナ同シ考ヲ起セリ終日絶ヘス小舟ヲ往復シ
陸ヨリ軍艦ニ来ル折ニハイツモ沢山ノ積荷ヲ
重タゲニ載セ来レリ斯クテ僅カ五日ノ滞在后

下田ヲ出帆スル時ノ計算ニハ三艘ノ軍艦ニテ
漆細工ノ買物ニ殆ント三萬フラレノ金ヲ下田
ニ殘セリト云ヘリ
吾々ト此地ノ人々トノ交際ハ家族同様ニ親密
ニテ晝モ晩モ何時ニモ拘ハラスト上陸シ何レノ
処ニ行キテモ親切ニ待遇セラレタリ書ノ間ハ
近傍ノ社寺ナトヲ見物シタルガ其奇觀愛スベ
シ又民家ニ立寄リテ茶ヲ請テ喫ムコモアリ夜
ニ入レハ月夜登ニ行キテ群集ノ中ニ加ハリ此
地ノ人々ト共ニ踊ル又折々ハ小舟ヲ

仕立ヲ無代價ニテ軍艦マデ送ラレタリ此地ノ
或ル人々ハ御身等江戸ニ行ク前ニ此地ニテ樂
シタマヘ江戸ニ行テハ此地ト同樣ノ待遇ハ受
ラレマジキガ江戸ノ人ハ氣象荒クテ諸事親切
ナラズト云ヒツヽ笑ヒシガ吾々ハ后ニ至リテ
此注意ノ眞實ナリシヲ知レリ
此愉快ナル地ニ寄泊スルヿ五日ニメ使節ハ出
帆ノ令ヲ傳ヘタリ出帆ノ際ニ至ルマデ日本人
ハ甲板ノ上ニ群カリテ或ハ「シャレバシ」ヲ飲ミ
又ハ其他ノ酒肴ヲ頓ケ中ニハ船体ノ各部機械

ナトヲ見廻リテ其手ニ持タル扇ニ委シク書留
ムルモアリ抑モ清國ノ滯在中物賣ル商人ヲ除
キテハ只一回モ一人モ艦内ニ來リタル支那人
ナカリキ然ルニ日本人ハ其未タ眼ニナレサル
奇心ニ知ラサル奇ハ皆之ヲ知リ学バン事ヲ
知ラサル事ヲ知リ学ハンヿヲ貴フモノヽ如シ
是レ支那人カ髮ノ黑キ人間ノ習慣ニナキモノ
ハ皆ナ賦メテ顧サルト格段ニ相異リタル特性
トイフヘキ也
九月十九日ノ夜神奈川及江戸ニ赴カレンカ為メ

ニ下田ヲ出帆セリ其前日下田奉行ハ大礼服ヲ
着ケタルニ名ノ士官ヲ送ラ日本國務皇帝（アンフルーエンザ）（日本
ニ二天子アリテ一ハ神奇ヲ司トル天子一ハ世
俗ノフヲ司ル天子ト思ヒタル也）ノ逝去ヲ公ニ
使節ニ告知セリ此緊要ナル通知ハ同日ノ朝首
府ヨリ到着セリトニヘリ我軍艦ハ大君ノ死ヲ
吊スル為ノ終日旗ヲ半檣ニ掲ケタレ日本人
ハ未タ此ノ如キ儀式ヲ解セザレハ深ク此敬意
ニ感シタルヤ否ヲ知ラズ吾々ヨリ四時間后レ
テ出帆シタル「ルーラプス」艦及「ルーラプレシヤレ」艦

ハ江戸湾ノ入口ニテ我船ニ追付タリ江戸湾ニ
入レハ湾内ニハ大小ノ船舶桅檣林立シ陸上ニ
ハ市街村落團ヲナシテ繁華ノ気象著ク見ユ其
上ニ突出シテ雪帽ノ嵯々タルヲ頂クハ彼ノ國
中ニテ尊崇スル神聖ナル富士山ナリ此ニ聯絡
スル丘陵ノ秋陽ニ映射スル有様ハサナガラ黄
金ヲ鍍スルカ如シ午后三時江戸湾ノ汴四マイ
ル処ニ投錨セリ此ハ神奈川ト称スル市府ノ一
部ニ面スル処ニテ砂洲形ノ五度ノ軍艦ヲ見タ
リ此軍艦ノ内二隻ノ蒸船ハ英蘭ノ二國ヨリ日

本ニ聳与セシモノ也國務宣帝ハ三十五歳ニテ
胃病ニカヽリ二十日以前ニ死去セラレタレモ
政府ハ江戸ノ朝廷ニ昔ヨリ行ハレタル政略ニ
從フテ喪ヲ祕スルヲ得策ナリトシ遂ニ今日
マテ發表セザリシ也嗣子タルヘキ人ハ今年甫
メテ十三ニメ養子ナリ未タ公然相續者ト認メ
ラレサルニヨリ目下政務ヲ執ル者ハ摂政會議
ナリ日本人民ハ喪ヲ表スル為ニ四十日間髯ヲ
延サヽルヲ得ス或人窃カニ吾々ニ物語リテ新
大君ハ猛暴ノ氣風アリ已ニ学問ヲ始メタレモ
孔夫子及ヒ其祖述者ノ説ヲ餘リ好マレス去リ
ヤラ此國ノ掟トソ是非ニ斯ノ道ヲ学ハサルヲ
得ス又其ノ教師ハ跪ヒテ講義スレモ或ハ嚴ニ
ク規諫スルヲアリトニヘリ
ル、ラプラス艦ハ四十八時間絶ヘス日本士官ニ
取囲マレタリ此士官等ハ紺ノ立派ナル衣服ヲ
着ケ二刀ヲ挿ミタル從者ヲ隨ヘテ往キツ戻リ
ツ艦内ヲ殘ル隈ナク徘徊セリ又江戸ノ奉行七
人一度ニ艦内ニ来訪アリ此人々ノ冷澹ナル振
舞ハ吾々ヲメ徒ラニ下田ノ隔意ナキ人民ヲ追

懐セレメタリ、クロ男爵カ上陸シテ江戸ノ府内ニ住ミタル上ニテ条約ヲ協議セシトノ断然タル申出ハ此高官ノ列シキ難論ヲ惹起シテ遂ニ果テシナキ論判トナレリ彼等ノ中分ニテハ江戸府内ハ深ク喪ニ沈ミ居レハ始メテ日本ニ派遣セラレ又江戸ノ朝廷ニテモ栄誉ヲ以テ引接セシト希望スル仏國使節ヲ礼遇スルヲ得ス依テ若シ其礼遇ヲ望ムトナラハ四十日間待タレヨトニフサレナグロ男爵ハ其儀ニ及ハサル旨ヲ答ヘタリ彼又曰ク江戸ノ府内ニ来ラル、

件ハ府内ノ人民ハ珍ラシキヲニ思ヒテ来集リ果ニハ混雑ヲ起シテ多少ノ損害ヲ醸サンモ知ルベカラズトニフ使節ハ之ニ答ヘテ其混雑ヲ鎮圧スルハ日本政府ノ義務ナルヘシトイヘリ彼又ニフク猛烈ナル「コレラ」病ハ江戸府内ニ猖獗ヲ極メ居レリ死亡ノ数既ニ三千人毎日死スル者三百人ヲ下ラス此時期ニ際シテ府内ニ入リ危険ヲ冒サル丁得策ニ非サルベシトグロ男爵答ヘテ曰ク吾々ハ「コレラ」病ヲ知レリ仏蘭西ニモ「コレラ」アリ毫モ恐ルヽ丁支ナシト右等ハ日

本役人ノ主張セシ事ナル箇条ナリ此ノ如キ兎
角ナル議論ノ為ニ使節ハ徒ラニ無用ノ時日ヲ
送ラサルヲ得スロルト、エルジン氏(英国使節)ノ
時ニモプーチヤチヤヌ伯(露国使節)ノ時ニモ同様
ノフアリタリ此ノ不愉快ナル訪問ヲ受クルフ
三日ノ后ニ至リテ終ニ上陸シテ江戸府内ニ滞
留スルフノ承諾ヲ得タリ依テサ三日正午ニフ
レタド、メルメリ、フランウイニリ、ノミ氏ハ日本政
府ヨリ吾々ノ旅館ニ充タル家屋ヲ一見セシガ
為ニ上陸セリ此家屋ハ帝宮ヲ距ルフ遠カラズ

上陸ノ人々ノ認定ニテハ場所ハ海岸ヨリ左マ
テ遠カラサル相應ノ區ニテ家屋モ清潔ナリ又
充分ノ廣サアリトノ支ナレハ遂ニサ六日ニ一
同上陸スルフニ決セリ故大君ノ埋葬ハサ四日
ニ執行ハルヘキ筈ニ付吾々カ寺院ヲ旅館トス
ルフモ二日間ノ猶豫ヲ義諾シテサ六日トハ定
メタル也
九月サ六日日曜日午前十一時ニ叭、ラプラス艦
ニ一同集會シ三艘ノ端舟ニ乗リテ始メテ日本
首府ノ土ヲ踏マシカ為メニ出発セリ使節ノ叭、

ラプラス艦ヲ去ルヤ及ル、プレヒヤン艦ノ前ヲ
ヲ過ルヤ水夫ハ一同帆桁ノ上ニ立テ五ビ「皇帝
萬歳」ト叫ビタリ然レヒ大君ノ喪ニ居ル日本人
ニ遠慮シテ祝砲ヲバ放タザリシ天氣ハ蒸暑シ
陸ニ達スル迄ニ一時間ヲ費ヤセリ又五ケ所ノ
臺場ノ前ヲ過タリシカ此臺場ハ土石ヲ築上ケ
タル上ニ設ケシモノニテ昔ポルダヨガル人ノ
与ヘタル図ヲ本拠トシ全ク西洲風ニ築造セシ
モノト云ヘリ左モアルカ其結構立派ニメ防禦
ノ兵士モ充満セリ一行ノ荷物ハ日本政府ヨリ

送ラレタル小舟ニテ軍艦ヨリ陸上マテ早朝ヨ
リ運送ヲ始メタリ吾々ノ小舟ハ陸場ニ乗近寄
ルニ頗ル困難セリ潮ハ追々引キ始メヌ遂ニ上
陸場ニ乗リ付ルヲヲ得スシテ使節ハ已ニヲ得
ス演船ニ移リ岸ニ近ツキ夫ヨリ梯子ヲ掛ケテ
漸クニ上陸セリ斯クマテ久シク本捨テ置カレ
タル日本ノ地ニ此困難ヲ経テ上陸セシハ恰モ
古キ日本ノ開化ヲ打破リテ新ニ西洲ノ開化ヲ
誘導スルノ困難ヲ豫ヲスルモノヽ如シ陸ニ上
レハ囲柵ノ内ニ護衛ノ為メニ来リタル大小指

シタル百人斗リノ人々立並ヘリ其間ノ門ヲ出
ツレハ我カ使節ノ携ヘタル履歴アル（弘使カ天
津ヨリ持チ来タル物）駕籠ヲ置ケリ此ニ続キテ
吾々ノ為ニモ此國ノ「リモシ」（乗物）ヲ備ヘオキ
タレ氏吾一行ハ此ノ珍ラシキ國土市街ヲ充分
ニ見物セントノ考アレハ此漆塗リノ美シキ箱
ニ乗ルヲヲ錦トテグロ男爵ハ徒歩ヲ取リ吾々
モ其跡ニ隨ヒタリ暫時ノ間人口稠々稠密ナル
地ヲ過キタリシガ夫ノ名高キカナギ、モイ」（鉄
棒持ナラン）即チ錦ノ棒ヲ持タルモノ数名吾々
ノ先ヲ払ヒテ通路ヲ開ケリ此純然タル土地國
有ノ風俗ヲ現ハレタル錦棒持ハ町内ノ門際ニ
至ル毎ニ即チ百歩ゴトニ交代セシカ身ニハ黄
緑、黒又ハ赤ニテ彩トリタル羽織ヲ着テ兜ニ似
セ又其棒ハ云フニ及ハス其上端ニ付タル輪キ
錦ニテ作リ之ヲ強ク突テ輪ヲ鳴ラス棒ノ下端
ハ尖リテ人ノ足ヲ衝キ貫カレトスルモノヽ如
シ此錦棒持ガ近寄レハ群集ノ人々ハ皆ナ避ケ
テ吾々ヲ通行セシメリ兎角スル内ニ役人町
ニ入レリ此取ハ下奉行（スウブニーヨ）ノ江戸滞在中其家族後

者等ノ住居ニ充テタル屋敷アル処ニテ最モ不快ナルヲモ苛酷ナルヲモ迷暗ナルヲモ皆此処ニアリ建築ニハ修飾アレモ模型ハ総テ穿屋ニ似タリ樫ニテ作リタル廣大ナル門ハ常ニ閉レテ之ニ付着セル幅廣キ鉄ノ鎖アリ又外方ヨリ見ヘ透カヌ様ニ作リタル内ノ内ニ男子モ女子モ娘モ息子モ其家ニ在ルト有ラレ限リノ人々ハ着ヲ集メテ珍ラシゲニ吾々ノ通ルヲ眺メ居タリ道ノ一方ハ下奉行ト其家族トノ住居ニテ他ノ一方ハ其従僕ノ住ム所ナリ一般ニ支那ト

ハ大ニ異リテ道幅ハ廣ク清潔ニ空気ノ流通モ至極宜シク道敷ハ砂利ニテ固メ両側ニハ清キ溝アリ又家屋ハ支那街ノ如クニ密接セス又何レノ処ニ行キテモ町役人ノ十分勉強ナル形迹アリ半時間計リ歩行ノ后吾々ノ旅館ニ到着ス此処ハ江戸湾ト全市街トヲ見下ロスベキ丘陵ヲ背ニシテ廣大壮麗ナル仏堂アリ又樹木ノ鬱蒼タル小山ノ麓ナリ（芝増上寺地中）到着ノ后間モアラス六人ノ奉行ノ訪問ヲ受ケタリ此人々ハ全権委員ニ全セラレタル高官ニメ我使節ニ

其支ヲ告ケ且フ兼テ健康ノ訪問ニ來レル也斯
テ暫クニシテ大君ヨリ贈ラレタル思掛ケナキ
晩食ヲ持來レリ此晩食ハ大概下田ニテ饗應セ
ラレタルモノト同樣ニテ美麗ナル沢山ノ品々
アリキ吾々ハ歓ヒテ速カニ此贈遺ノ物ヲ受ケ
タリ大君ハ此外ニ梨子葉葡萄ヲ入レタル大ナ
ル菓物ノ籠ヲモ贈ラレヲ且ツ其上ニ首府ノ帶
在中毎朝此レ丈ケノ菓物オバ贈ラルベシトノ
旨ヲ傳ヘタリ

日本首府ノ周囲ハ百マイル人口二百五十万ア

リ又府内ニ樹木ノ茂リタル小高キ塲所モ數多
アリテ大概其処ニハ寺院アリ此所ニ至リテ市
街ヲ見ル眺望ノ美ナルヲ謂ハン方ナシ又廣キ
庭園ハ到処ニアリテ屢々日本役人ノ其家族ヲ
伴ヒテ此庭園ニ遊歩スルヲ見受ケタリ日本役
人ハ用事ナケレハ決シテ外出セザル風アリ故
ニ此ノ庭園ニテ遊歩スル也此辺ハ支那ト同シ
ク日本ニテモ役人ノ面ヲ人民ニ見スルヲハ甚
タ稀レニシテ居常身ニ礼服ヲ着ケ門外ニ出ル
ハ數多ノ行列ニ取囲マレテ往来セリ故ニ我

カ皇帝ナポレオンニ世ハ毎日軽キ馬車ニ乗リ
隨官ヲモ召連レス自ラ馬ヲ御シテ市街ヲ馳セ
玉ヒ又時トシテハ乗馬ニテ只タ一人ノ補官ヲ
隨カヘ市中ヲ往来シ其餘ノ時間ハ國務ニ執掌
シ玉ヘリト日本人ニ物語リシガ日本人ハ此話
ヲ解スルヲ能ハサリシ蓋シ君主ノ臣民ニ親
密ナルヘキ意想ハ日本人ノ心ニ浮ハス又主権
者ノ國務ニ執掌スベキヲモ其理由ヲ解スル能
ハス却テ左モ深ク判断シタル様子ニテソレニ
テハ仏國ノ大君タルヲハ実ニ苦シキモノナル
ヘシト云リ

日本大君ノ外出スルヲアレハ道路ハ空虛トナ
ラサルヲ得ス市民ハ各其家ニ蟄居セサルヲ得
ス市街ハ鎖静極リテ少シノ動揺モナスヲ得
ス稀レニ此有様ヲ見物セントテ出掛ル者アレ
ハ始終額ヲ土ニ摩リ付ケ置カサルヲ得ス少シ
ニテモ之ニ違ヘハ死罪ニ処セラルベシ然レト
只幸ニ大君ノ外出少キ為メ江戸ノ人民ハ此困
難ニ遇フヲ稀ナリ大君ハ一ケ年ニ五六度ノ外
ハ宮殿ヲ出フルヲナシレソレモ乗物ニテ一里計

リ隔リタル寺院ニ赴キ先祖ノ位牌ヲ拜スル迄
ナリ大君ハ此ノ如キ儀式ヲ備ヘタル斯クノ如キ
定例ノ裡ニ生活スルコヘ邃ニ半バ神ノ如キモ
ノトナリテ人民ハ隘リニ御キ見ルコモ得ズ又
餘リニ斯ク尊嚴ナル故ニ世俗ノ支務ヲ処弁ス
ルコヲモ勿体ナキマデト成レリ仍テ首相即チ
ゴタイロー（御大老）ト称スルモノト其評議官ト
ニテ國政ヲ執ルニ至リタル然レドモ此ノ如キ政体
ニ至リタルモ敢テ其ノ目的ニ相違シタルモ
ノトハ云フベカラス元来大君ハ日本國ノ無限
ノ君主ナル教務皇帝（アツプツ）（先ニ國務皇帝トニヒタル
ト反對ニテ京都ニ在マス主上ノ御事ヲ宇教ノ
ミヲ主宰セタル、天子ト信ジタルナリ）ノ代理
ヲナス者ニテ教務皇帝ハ「ミカド」（帝）ノ支務ヲ大
君ニ負担セシメタルモノナレバ大君ハ又タ其
支務ヲ首相ニ委任セリトモ云フベシ但シ今日
ノ有様ニテハ大君ハ已ニ第二ノ「ミカド」タルコ
ヲ免フベカラサル支実也
江戸ニ旅館ヲ定メタル翌日午前六時ニメルメ
ー氏モーブール氏及ヒ予三人ハ大君ノ宮殿近

傍マテ遊歩セントテ出テ立タタリ此宮殿ノ近
傍ニ至ルハ吾々ノ案内者カ行ケト勧ムル方角
ニ行カスシテ常ニ其反對ナル方ニノミ進ミタ
レハ遂ニ達スルヲノ得タリ進ミニケ所ノ大ナ
ル廊ヲスギタリ此処ニハ巾廣キ堀アリテ流水
充満シ又大分高キ土手アリテ手入レモ行届キ
其上ハ青草ト常緑木ノ類ニテ掩ハレタルガ木
ノ枝ハ苔ノ上マテ垂レ下リテ白ク愛スベキ数
羽ノ鷺ハ此青草ノ上ニ眠リ居レリ又数回番兵
ノ巡行スルニ出遇ヒシカ此等番兵ノ居タル番

所ノ内部ハ漆ニテ塗リタル其前面ニ大小サレタル
人々踵ヲ重ネテ黙坐セリ此廣大ナル役人町ハ
ヒヨダイミヨウ（諸大名）即チ日本諸侯ノ通行ノ
外ハ常ニ閑静ヲ極メタリ諸大名ハ馬カ又ハ乘
物ニテ大君ノ謁見ニ赴ク者ニテ威服ヲ着ケ大
形ナル供勢ニ護衛セラレテ通行セリ又世人許
リノ大小サレタル人々ハ道ノ真中ヲ押柄ニ進
ミ來リ其跡ニ頭ニハ種々ノ色漆ニテ塗リタル
大ナル冠リ物ヲ戴キ身ニハ薄鼠色ノ正服ヲ着
ケタル大名ノ威装セル馬ニ乘リテ來ルヲモ

見タリ其馬ノ裝飾ヲ見レハ全ク封建時代ノ有
樣ニテ我中古ノ想ヒ出サル日本ニテハ決シテ
馬ニ鍮沓ヲ打タス人間ノ如クニ藁ニテ作リタ
ル鞋ヲハカセタリ此馬ハ支那ノ馬ヨリハ大キ
ク強シ食物ハ藁ノミニテ馬ノ種類ハ今代殆
ンド消滅シタル古昔ノ「リムーゼル」種ニ相似タ
リ日本ノ馬ハ取扱ハル、ニ榮譽ヲ以テセラレ
鞍ヲ置クノ外ニ使ハル、ニ繩ヲナシ何トナ
レハ江戸ニ車ハ多クアレ氏皆牛ニテ曳キ其全
國中一挺モ馬車ト云フモノナケレハ也又誰人
モ大君ノ都ノ江戸ヲ馬ニ乘リテ通過セント企
ツル者更ニナシ又其馬ニ乘ルトモ高官ノミニ
限レル特權ナリキ
偖テ前ニ述ヘタル大名ノ行列ニ立戻リテ記サ
ンニ夫ノ大名ノ后方ニハ矢張リ先払ト同數程
ナル大小サシタル人數アリ其跡ニ通常ノ人足
カ黑キ木ニテ造リタル大ナル行李ヲ竹ノ棒ニ
テ舁キ行ケリ大名ノ位高ケレハ荷物ノ數モ多
シトイフ此行李ノ内ニハ種々ノ場合ニ用ユル
衣服四季ノ衣服暑キ中寒キ中雨ノ降ル中日ノ

輝ルヰ用エル衣服等纏シテ衣服アリ此等諸大
名ハ常ニ其衣裳箱ノ一部分ヲ携ヘテ外出スル
ナリト聞ケリ又此行李ヲ舁ク人足モ同シク奇
妙ナル行列ノ一部ヲナス者ナリキ吾々ハ數町
間此行列ノ跡ニ付添ヒ行テ已ニ第三廓ノ門闕
ヲ過ヒタルヰ其門ヲ護衛セシ三名ノ士官ハ突
然吾々ヲ逐ヒ退ケテ若シ今數歩ヲ進ムヰハ此
士官等ハ首ヲ斬ラルヘシト告タリ予等ハ彼此
ト爭ヒタレモ士官等果ニハ頻リニ歎願ノ意ヲ
示シタリ彼等カ首斬ラルヘシトイフヿ吾々ニ

取リテ左ノミ恐ルヽニハ非サレヒ日本政府ハ
其制定ノ法律ニ背ク者ハ誰彼ノ用捨セス嚴重
ニ罰シテ赦スナシトヽ云フヿヲ知リ居ル以上ハ徒
ラニ我意ヲ張リテ彼等ノ為メニ犯則ノ種ヲ蒔
クモ本意トスル処ニ非ルヘシトテ彼等ノ請ヲ
許シタリ此義ニ就テハ前日已ニ適例アリ「グロ」
男爵カ江戸入ノ時天津ヨリ持来リタル美麗ノ
駕籠ヲ舁ガスル八人ノ日本人夫ニ支那服ヲ着
セタリシガ支那服ヲ着ルヿハ日本ノ慣習ニ戾
レルモノニテ大甚シキ不都合ナリト云フ者アリ

リ遂ニ日本官吏六百人ハ此曲事ヲ制セサリシ
廣ヲ以テ各々百日ノ禁錮ニ処セラレヌサレハ
此駕籠ハ合セテ六万日ノ禁錮ニ贖セリ使節ハ
此支ヲ聞テ大ニ不無シ罪人ノ罰ヲ軽減セシ
ヲ考ヘタレモ吾々ヲ守護シ護衛シ探索スル為
メニ大君ヨリ送ラレタル大小サレタル士官等
ハ左様ノ支ヲ許サヽリシ日本法律ノ尊厳ナル
ヲ既ニ斯ノ如シト雖吾々ニ取リテハ甚タ快カ
ラサル支ナリキサレハカクマテ日本政府カ重
レスル掟ニ注意セサル者共ナリト吾々ガ有敬

サル、モ本意ナラストテ前ノ士官等ノ歎願ヲ
モ容レタル也
江戸府内ハ判然ニワニ分割シ居レリ一ハ役人
所ニテ皇居ノ周囲ニアリ廣闊壮大神厳ナル処
ナリ他ノ一部ハ喧猥雑沓人ノ動揺メキ人ノ叫
ヒニテ埋モレリ此二ツノ部分ハ物ノ相隔フル
フ恰モ百里モアルカ如シ役人所ハ大名奉行知
支ヲ始メ一般ノ官吏ノ家族ノ住居スル処ニテ
此家族ハ大君カ恐嚇猜疑ノ政略ニヨリテ人質
トシ留置カル、也其他江戸ニ勤番スル役人モ

滞在中ハ茲ニ住メリ役人所ノ遊歩ハ明堺長家等始終一様ノ観ナレ共甚タ平穏ニシテ往来心ノマヽニタヽ也之ニ反シテ商人所ニ踏込ムヤ否小供等ハ叫ヒ廻リ男女ハ走セ違ヒテ往来ノ老幼狂スルカ如ク此混雑ノ真中ヲ押分ケツヽ道ヲ求メテ歩行スレハ跡ヨリハ五六百ノ人(見物ナルベシ)ヒ来レリ故ニ此所ノ遊歩ニ於テ歓楽ヲ買フハ極メテ難シ嗚呼何人モ此有様ニテ数時間遊歩セハ早ク我旅館ニ入リテ此見世物タルヲ免レント思ハサル者ハナカルベシ

吾々ノ旅館ハ極メテ都合好シトハ云ヒ難シ其内外ノ空気ノ界ハ米ニテ製シタル紙張リノ障子ヲ以テス故ニ夜ハ頗ル寒キヲ覚ユ付添ノ日本人ハ何レモ甚タ好人物也必要ノフハ勿論ニテ其外ニモ吾々ヲ喜ハスベキフヲ求メタリ又何度ヽ付テモ怜悧也其中幾部分ノ人ハ已ニ仏蘭西語ニテ今日ハ(ナンニチハル)又ハ今晩ハ(オヤスミ)ト云ヘリ又百マテハ仏蘭西語ニテ数ヲ算ヘ得ルフヲ知レル人モアリ此等ノ人ハ熱心ヽ外国ノ学問ヲ学ハレト欲スルモ教師ナキニ苦ムフト空シタレハ吾

ロハ浮技ノ教師トナリタル心得ニテ先ヅ我カ
仮名ヲ教ヘタリ若今一ケ月モ此地ニ滞在シタ
ラシニハ此寺院内ニテハ皆ナ仏語ノミニテ話
ヲ得ルニ至リシナラン
夜ハ稍々長シタリハ九時頃ヨリ江戸ノ各町ヲ
分界セル門（所木戸ナリ）ハ悉テ閉シテ翌朝ノ六
時迄ハ往来ナシ吾々ハ已ムヲ得ズ寺院ノ椽側
ニ出テ大ナル慧星ヲ眺メタ又ハケルゼグ及ヒオ
ゼリー両少佐ノ寓所ニ會シテ「ウイスト」（骨牌ノ
名ヲナニテ閑ヲ消セリ

江戸ニ身体肥大ノ相撲取五百人アリ隨意ニ呼
フヲ得ルヨシニテ一タ招カレトシタレモ少
シク妨ケアリテ果タサヽリシ
条約會議ハ大ニ捗取リタリ「グロ」男爵ハ予ヲ書
記官ニ命シタルニヨリ男爵閣下及ヒ「アベー、メ
ルメー」氏ト共ニ數度議席ニ列セリ
我使節ハ首座ヲ占メ六人ノ日本全権ハ使節ニ
向ヒテ机ノ周囲ニ等級ニ從テ列座セリ六人ノ
全権等ハ各其意見ノ在ル処ヲ仔細ニ述ヘタリ
レカ此極東政支家ノ識見ノ錦密ナルヲト支務

ニ熟練ナルヲニハ數々驚ケリ今六人ノ名ヲ左ニ記スヘシ此名ハ日本ニテハ玄孫ナル名ナルヘキヲ疑ヒナケレモ仏蘭西人ノ耳ニハ少シク堅苦シク聞エル也

ミズノー、イキグーノゴノ、カミ、（水野筑後守）
ナガイ、ゲンバノ、カミ（永井玄蕃頭）
イノウイエ、ヒナノ、カミ（井上信濃守）
ホリ、オリベノ、カミ（堀織部正）
イワアセ、フイレグーノ、カミ、（岩瀬肥后守）
カマイ、サキヨー、カミ（駒井左京）

此人名ノ終リニ記シタル全権（駒井）ハ無言ノ人ナリ如何ナル烈シキ議論ノ生シタル場合ニラモ決シテ発言シタルヲナシ唯耳ヲ傾テ、聴キ居ルノミナレハ吾々ハ切カニ此唖ノ如キ人ノ為ニ面白カラサル批評ヲ下セシカ豈図ラレヤ其役目ノ真実ノ性質ヲ知リ又最モ大切ノ役目ナルヲシ聞得テ実ニ喫驚セリ此責人カ名刺、記シタル役目ノ文字ヲ直訳スレハ「皇帝ノ間諜」（エスピオンアンペリヤル）トニヲフニテ親シク皇帝ニ奏聞スル為ニ支態ヲ監察スルノ人ナリキ（御目付ナリ当時御目付

ノ議席ニ臨ムヤ一言ナリトモ云フヲ得ス唯其議論ノ模様ヲ諦聴スルヿ此ノ記事ニアルカ如シ（間諜ハ日本ニテハ深ク風俗習慣ノ内ニ浸潤シ公然適法ノ者ナリトシテ行政上慣例ノ一部ヲナシ又内政上尊重スヘキ主義トナレリ故ニ間諜ハ江戸ノ朝廷ニテハ政府ノ方針ノ其一ナリ此ノ如キ情況ナレハ日本全國ノ人ハ二様ニ分レテ互ニ探偵ヲスルト言ンモ過言ナラス現ニ吾々ヲ護衛スル百人ノ役人即チ百人ノ大小サシタル人々ハ実ニ勇壮ナル男児ナレトモ吾々カ部屋ノ内ニテ為シタル事モ遊歩ノ折ニナシタル事モ悉ク彼等カ扇ニ書留メタリ此レ蓋シ其筋ノ役人ニ報告スルカ為メナラン然ルニ夫レニテモ是ラスト見ヘ又新タニ六名ノ人ヲ加ヘタリ此人々ハ吾々ニ付添ヒ居ル人ヲ又監察スルモノ（御徒目付、御小人目付）ニテ即チ付添ヒノ人々ハ吾々ト如何ナル交際ヲナレ居ルカヲ監察スルモノナレハ取モ直サス複間諜ナリ

十月九日（土曜日）ニ条約ハ調印済トナリ又最早江戸ニ回責モナケレハ使節ハ翌日軍艦ニ帰ル

フニ決セラレタリ依テ六人ノ奉行ニ別ヲ告ケ
タルニ此人々ハ何レモ仏蘭西ニ於テ再會スヘ
シト云ヘリ且フ第二全権委員永井玄蕃頭ハヒ
ニ「チユルリー」(仏ノ帝宮)ノ朝廷ニ大使トシテ送
ラルヘキ命ヲ受ケタリトニヘリ此外ニ日本政
府ハ「ロレドレ」(英京)「セント、ペートルスブルグ」(露
京)及ヒ「ワレントレ」(米京)ニ使臣ヲ送ル筈ナリト
云フ永井ニ如何ニシテ仏蘭西ニ来ラル、ヤ「ス
エス」ヨリ来ラル、カ喜望峰ヨリ来ラル、カ又仏
蘭西ノ軍艦或ハ郵船ニ乗込マル、カト問ヒタ

ルニ永井ハ欣然トシテ日本人計リノ乗組タル
日本帝國ノ軍艦ニ乗リ國旗ヲ大檣ニ翻ヘシテ
トウロン(仏國南方ノ軍港)ニ上陸スベシト勇々
シクモ答ヘタリ此國ノ國旗ハ白地ニ赤キ玉ノ
旗ナリ又日本通弁官ノ仏語ニ習熟スル為メ五
ケ年ノ時間ヲ与フルヲ条約中ノ一条(第廿一
条)ニ明言セシニヨリ永井ハ友愛ノ情ヲ含ミテ
笑ヒナカラ仏語ハ欧洲ニ於テ最モ廣ク播傳セ
シ語ナリ我邦ニテモ相應ノ生活スル人々ハ皆
此語ヲ話スヲヲ渇望シ居レリトノルメー」氏ニ

物語レリ

吾々ハ斯クマヲ能キ都合ニテ別ヲ告ケ大君ヨリ送ラレタル晩餐ノ饗應モ受ケタリ即チ始メタル如ク終ルモノ也（未著ノ始ニモ食事ヲ送ラレタリ）トハ此謂ヒ欤其外我一行ノ人銘々和親ノ紀念トシテ見ルヘシトテ種々ノ色絹ヲ大君ヨリ贈ラレタリ日本ノ絹ハ支那ノ絹ニ比スレハ少シク粗糙ナレトモ其深色ノ目醒ル程ナルト光沢アル点ニ至リテハ支那絹ニ一歩モ譲ルトコロナシ

十月十一日（月曜日）ニ使節ハ軍艦ニ飯ウレトテ江戸ノ地ヲ出ラシケタリ此ノ日ノ朝ヨリ吾々ノ旅館ナル寺院ニテハ荷造リスルアリ諸勘定ヲ払フアリ種々ノ混雑ヲ極メタリ急ハシク朝飯シハ時ニ食シテ夫ヨリ移轉ヲ始メタリ前晩ヨリ運搬ノ諸道具ヲ用意シテ来ルヘキ吉ヲ待レテ百人ノ人足ヲ呼集メシガ吾々ハ此混雑中名モ知ラヌ者ニ僅カ携ヘタル旅荷物ヲ預ケタレハ紛失ハセズヤト氣遣ハシク思ヒタリ又出立ノ折リ寺院警護ノ長ナル下奉行ハ僕属ノ役

人ヲ率ヒテ使節ニ告別セリ斯テ我々ハグロ男爵ノ後ニ（乗物ヲハ辞シテ）徒歩ニテ随行ス此一行ノ真先ニハ三色ノ国旗（仏国ノ国旗ハ紺白赤ノ三色ナリ）ヲ翻ヘシ江戸市街人民ノ奇異ノ観物トメ驚奔スル中ヲ通過シタルカ途々ノ諸門ハ皆ナ閉ゲ又縄ヲ道ニ張リテ吾々ノ通路ニ差支ナキ様注意シアリタリ兎角シテ先日着セシ上陸場ニ達セシガ今度ハ乗船場ノ設ケ十分ニ整ヒ居タリ吾々一全ハ巳午ニ各自ノ艦内ニ帰リタリ使節ノ天皇ニ「プラス」艦ニ帰レルヲ

祝シテ船中ハ天皇萬歳ト五度ヒ叫ヒタリ

翌日東ノホトトギス白ム頃ホヒ錨ヲ揚ケテ江戸ノ地ニ別ヲ告ケタリ湾ヲ去リテ大洋ニ出テタレバ順風ニハアリ又レモ風強カリキ其風ノ力ニヨリテ四日目ニ又ワレゲエマンノ海峡ヲ越ハ五日目ニ長崎ニ到着セリ

ル、テプラス艦ルプレビヤレ艦ハ此朝巳ニ長崎ニ入港シ居レリ又露国ノフレガフト形大軍艦アスコールハ大瓜ニ出遇ヒテ帆檣ヲ折リ此必ニ停泊セリ此他ニ来国フレガフト形軍艦ポー

アタレ及ビ「ミスレフピ」ノ二艦モ向シタリ斯
テ上陸セントスルニ日本人ハ港内ニ群集セリ
此中ニハ例ノ間諜モアリ又食物ヲ諸艦ニ送ラ
レトスル者モアリキ下田ニ泊キラ吾々ハ長崎
ヲ称賛セリ吾々ノ見ル所ニテハ港ハ申分ナキ
地勢ナリ其景色ノ美麗ナルハ下田ニ稍劣レル
地平ノ見度ハ下田ヨリ廣シ行当リノ山麓ノ林
中ニ大砲ノ備付アルヲ見タリ又彼所此所ニ大
ナル幕ヲ張リテ恰モ大軍ヲ備ヘ置キタルモノ
ヽ如ク見セ掛ケヌ

当時長崎ニハ二隻ノ愛ラシキ「コルウエット」形ノ
小汽船アリ一ハ日本ト称シ他ノ一ハ江戸ト称
スル軍艦ニテ「ラヱ」(和蘭ノ都)ノ朝廷ヨリ日本
政府ニ譲与セシモノナリ和蘭王ノ傳令官ナル
同国少佐某ハ欧洲ヨリ此軍艦ヲ廻航シ来リテ
随行ノ技師及ヒ士官ト共ニ日本軍艦ノ乗組人
ノ教授ニ任セラレタリ其使命ノ年限ハ二ヶ年
ノ由ニテ同氏ハ教授ヲ受クル日本人ノ熱心ト
敏捷ナルヿヲ大ニ称賛セリ氏ノ言ニヨレハ速
ニ善良ナル水夫ヲ作ルヿハ容易ナリ只タ士官

ハ今日教授ヲ始メテ明日作リ出スフシ得サレ
ハ日本海軍ニ永ク之レキモノハ水夫ニアラス
レテ士官ナリト云ヘリ
「ド、カタレゲイフク」氏(和蘭ノ少佐)ノ外ニ長崎
ニテ「ドンケル、キユルチーユス」ト称スル人ニ遇
ヘリ此ノ人ハ和蘭商館ノ長ニテ又和蘭皇帝陛
下ヨリ日本ニ送ラレタル委員ナリ氏ハ廿一年
間印度ニ住シ五ケ年前長崎ニ来リ一度モ欧州
ニ帰リタルコトナシト云フ又日本政府ハ蘭人ニ
對シテ家族ト共ニ来住スルヿヲ今日迄許サレ

サレハ公氏ハ其細君ト五人ノ小供ヲ和蘭ニ残
シ置キタリト云ヘリ
吾々ハ少人数ナル和蘭居留人ノ館内ニテ愉快
ニ日ヲ送レリ「ドレケル、キユルチーユス」氏ノ言
ニ依レハ長崎ハ夏ハ殆ト「バタウイヤ」ニ等シ
キ暑サナレ共冬ハ雪フリ氷モ張レリ食麦ハ甚
タ悪シクシテ肉類ハ殆ト無シト云ヘリ
日本ニハ羊モ山羊モ豚モナシ日本人ハ支那人
ノ如ク殆ト米ト魚トノミニテ生活セリ牛
ハ耕作ニ用ユルノミニテ之ヲ屠ルハ神仏ヲ憤

カスガ如ク思ヒ居レリ冬ニハ獵物モ稍アリテ
鶉、猪、鹿ナドヲ見ルヿアリ此時節ニハ雉子ノ價
長崎ニテ僅カニ六文ナリトヿフ
日本ノ諸侯ハ其領地ニ於テ火繩筒ト犬トヲ用
ヒテ獵ヲナス又屢々弓ニテ鳥獸ヲ獵ルヿアリ
惣レテ日本ノ弓術ハ挙動的中ニ最カヲコムル
モノニテ射法甚タ巧ミ也其他諸侯ハ平常学問
ニ身ヲ委ヌ此ノ諸侯ノ一人ナル薩州侯ハ一日
不思議ニモ和蘭士官ノ返答スルヿ能ハサル疑
問ヲ云ヒカケテ士官等ヲ困シメタリ即チ侯ハ
気壓ノ観測ニ寒暖計ヲ適用スルハ如何ナル法
ヲ用ヒルヤト問ヒシニ和蘭ノ士官等ハグリー
レウイチノ天文台ニテ気壓、温度、湿度ノ変化ヲ
精査スル為メニ寒暖機ヲ使用シ居ルヿヲ忘
レテ返答スルヿ能ハサリキサルニテモ此頃発
明セシ学問上ノ実ヲタイムスト何ヲ去ルヿ七
千哩ノ遠キニ居ル薩州侯ハ如何ニシテ知リ得
タルモノナラシ不審カシサヨ
長崎ニテハ遊歩スルニ自由極マレリ何レノ場
所ニ行キテモ仏人米人及ヒ露人ニ出遇ハサル

フナシ上陸ノ折ニ名高キ出島ト称スル小島ヲ
過キタリ此小島ハ築ヲ立タルモノニテ此処ニ
和蘭ノ商人ハ二百年間繫居シテ日本ノ通商ヲ
絶タサルヲ得タルニヨリ世ニ名高キ所トナ
レリ然ルニ幸ニ今日ハ右ノ番兵モ去リ囲モ取
レタレハ自由ニ市中ニ出ルヲ得ルニ至リヌ
日本ト支那ノ通商ハ盛ニナルモノヽ如ク言ヒ
ナスハ支実ヲ知ラヌ人ノ言也吾々ノ見ル必ニ
テハ此両国通商ハ殆ト皆無トイフモ可ナリ
此レ日本人ハ支那人ヲ蔑視スルヲ餘リ太甚シ

キニ過クルヨリ両国ノ間ニ頻繁親密ナル交際
ヲ開クニ至ラス長崎ニ来ル支那ノ商船ハ一ケ
年平均四五艘ニ過キス支那人ハ出島ノ右ニ当
リタル大分ニ廣キ地ヲ占メ居レトモ厳重ナル囲
柵アリテ其外ニ出ルヲシ許サレス此等支那人
ノ輸入スル商品ノ重ナルモノハ政羅巴商品ト
称スルモノニテ和蘭人ト常ニ競争セリ
十月廿二日（金曜日）ニ長崎ヨリ出帆スルヲニ決
定セレカハ長崎奉行ハ旗、吹流等ニテ飾リ立タ
ル立派ナル遊船ニ乗リ十二艘計リノ小船ニ引

セテ使節ニ告別スル為メニ軍艦ニ来レリ我三隻ノ艦艦ハ十一時ニ錨ヲ揚ケ長崎ヲ出帆セシガ「ポレジヤレ」艦ハ琉球群島及ヒ香港ニ赴ク為メニ途中ヨリ吾々ノ一行ニ別レタリ同艦ノ琉球地方ニ赴キタルハ此絶域ニ住スル我カ哀ムヘキ宣教師等ニ書籍書状及ヒ欧洲ノ新聞抔ヲ送ラレシガ為メナリキ吾々ハ又上海ノ旅館ニ四度ノ郵便ハ到着シ居ル日箕ナレハ同地ニ飯着スルヲ急キタリ追手風ハ大分強カルベシト思ヒタルニ左ハナクテ海上誠ニ平穏ニテ三日目ニハ再ヒウーソレ及ヒワレプーヲ見逐ニ七周間不在ナリシ上海ニ達シテ仏蘭西居留地ノ沿岸ニ投錨セリ

第二

日本帝國ノ開化ハ実ニ僅少ノ時日ナリシガ此ノ日日中此ノ遼遠ナル帝國ノ風俗習慣及ヒ政府ノ情態ニ於テ多少ノ観察ヲ下スヲ得又世界ノ國々トハ全クカケ離レテ独リ自ラ不思議ナル開化ヲナセシ支実ヲモ幾分カ伺ヒ知レリサレハ今次序モナク切レ々々ナル説ヲ記シテ讀

者ニテスフ固ヨリ不完全ナルニ相違ナキモ亦
幾分カ利益ナキ業ニハ非サルベシト思ヘハ左
ニ其一ニヲ記スベシ
或ル稗史ニ日本群島ニ始メテ植民セシハ支那
ノ移住人ナリトスヘリ支那ノ或ル皇帝ハ猛悪
ニメ朝廷ヲ紛乱セシカ其身体ノ稍々衰セル
ヲ感シテ竟ニ不死ノ藥ヲ調製スルハ出来得
ヘキ者ナリトスフ俗説ヲ信シタリ時ニ一人ノ
侍医アリ此暴君ニ遠カリテ我カ生命ヲ安全ノ
地ニ置カントト思惟シ自ラ進ンテ此ノ不死ノ藥

調合スルノ任ニ当レリ斯テ暴君ニ奏スル様不
死ノ藥ヲ製スルフ左ノミ難カラスサレド此ニ
用ヒヘキ草ハ海外ノ物ニシテキウシウ(九州)
ニアリ但シ其性質非常ニ脆ク忽チ変性スルモ
ノナレハ此ガ價値(不死ノ)ヲ保チ効能ヲ失ハサ
ル様ニナスハ清浄潔白ノ手ヲ以テ取リ来ラサ
ルヲ得ズ願クハ無病強壮ナル三百人ノ若キ男
子ト処女トヲ帝國第一等ノ家族中ヨリ撰ヒテ
賜リタシサル時ハ此童男女ト共ニ海ヲ航リ僅
ニ数周間ノ後ヲ期シテ永久ノ生命ヲ保タルヘ

キ至貴至重ナル植物ヲ陛下ニ奉ルヲ得ヘレト
云ヘリ斯クシテ此狡猾ナル侍医ハ少年ノ男女
ヲ率ヒテ出発セシガ遂ニ再ヒ帰リ来ラス此國
ノ九州ニ航リ數世紀ヲヘテ日本全群島ニ充満
スル此ノ土俗ナル人種ノ基ヒヲナシタリト云
フ（徐福ノ十説）
左様ナル説ハアレ氏全体ノ支実ハ此ノ神聖ナ
ル傳説ト相違セリ日本人ノ色ハ吾々同様ニテ
白色ナリ彼ノ囚奴ノ子孫ナル黄色人種トハ思
ハレス又日本人自身モ支耶人ト同一ノ祖ニア

ラスト主張セリ日本ノ開化ハ或ル点ニ於テハ
支耶ノ開化ト一様ナレ氏其多分ニ就テ云ヘハ
大ニ支耶ニ異ナレリ（以下同一ノ点ヲイフ）疑ヒ
モナク文字ハ一様ナリ釈迦孔子ノ宗旨モ両國
共ニアリ日本ニモ支耶ト同様ナル寺院アリテ
支耶全様ニ頭ヲソリテ黄色ノ長キ法衣ヲ着メ
ル坊主此寺院ニ奉使セリ船ノ造リ方モ一様ナ
リ米麦茶及ヒ火酒ハ江戸ノ人民ノ重ナル食物
ナルヲ廣東ノ人民ニ相同シ日本ノ人足カ荷ヲ
運ヒ長崎ノ市街ヲ奇異ナル声シテ叫ヒ歩クハ

上海ニテ欧洲ノ船舶ニ茶ヤ絹ノ荷ヲ運ブ支那人ト異ナラス日本ノ文学ハ固有ノモノニアラスシテ全ク支那ノ文学ナリ日本人ノ髪ヲ結フハ尾ヲ垂ルヽヿノ其前ニ行ハレタル支那古代ノ風ニ似タリ右等ハ日本支那ノ類似スル必ナレ氏其他以ノ部分ハ此ノ如ク也其他ノ点ニ至テハ日本人種ハ気高クシテ横柄ニ全ク武人肌ニテ封建時代ノ気節アリ卑屈狡猾ニシテ軍吏ヲ嫌ヒ商賈ノ外ニ考ナキ支那人種トハ全ク異ナレリ日本人ハ名誉トイフヿヲ知レリ大小ヲ取上

ラルヽヿハ非常ノ耻辱ナリ此場合ニハ血ヲ流シタル后ニアラサレハ袋ニ納メス支那人ハ之ニ反シテ敵ヲ見テ逃ケタルヲ誹ラルヽモ嘘ヲツキタル証拠ヲ挙ラルヽモ只タ笑ヒ居ル計ナリ支那人ハ是等ノヿニハ無頓着ナリ支那人ハ恂ワロキ程不潔也日本人ハ不思議ナル程清潔ナリ日本人ハ愉快敏捷ニシテ又学フヿヲ望ム性質アリ支那人ハ已レノ國ニナキヿヲ惣ヘテ侮蔑セリ此等ノ比較ニヨレハ日本人民ハ支那ニ繁殖シタル人種ニ優レルモノナルヿ明カナ

リ日本人民ハ「モンゴル」ノ大種族ニ屬シテ朝鮮ヲ經テ此地ニ來住セシ者其祖先ナリトノ說ハ道理上確認スベキモノト信セリ

支那人ハ日本ヲ中國ノ半屬國ノ如ク看做セリ然レドモ長崎ニ居ル支那人ハ嚴シキ障壁ニテ囲マレタル商館ノ内ニ閉込メラレ其外ニ出ルヲ得ス又タ江戸ニテハ支那人ハ奇異ナル衣服及ヒ頭ニ尾アルカ為メニ餘リニ日本人ニ嘲笑セラレ玩物トナルガ不便サニ遂ニ從僕トヌ召連レタル支那人ヲ上陸セシムルヲ甚ハサリキ

日本人ハ通例ノ辭ニテハ其國ヲニポント呼ヒ古雅ナル語ニテハ旭日ノ帝國ト自稱セリ日本群島ハ四ノ大ナル島ト無數ノ小島ヨリ出来タルモノナリ四ノ大ナル島トハエド（エゾノ誤ナラン）ニポン、シコク、及ヒキウシウナリ其内ノ最大ナルニポン島ニハ政支上ト宗教上ト商業上トノ三フノ首府アリ即チエド（江戸）ハ大君ノ住所ナリ

ヌアコ（都）ハミカドノ住所ナリ

サカ（大阪）商業ノ地ナリ大君ノ領スル帝國ハニポンニシテ無人島及ヒ琉球ノ群島ヲ合セテ大小三千八百ノ島ニ跨

カレリ日本群島ニハ毎年烈シキ地震アリ夫カ
為メ家ハ悉ク木ニテ作リ二階以上ノ家ヲ見ス
然ルニ江戸ニアル種々ノ障壁及ト諸門ハ全ク
シクロペエレノ建築ニテ磨カサル切石ヲ積重
ネタリ又國内ニ火山多シ此國ニテノ最高山ハ
富士山ニテ海面ヨリ三千七百九十三メートル
アリ此山ニハ年中絶ヘス雪アリトノ説ナリシ
カ左ニアラス現ニ吾々ノ見タル中ハ雪ハ少シ
モナシ蓋シ夏季ノ炎熱ニテ融解セシモノナラ
シ

又恐ルヘキ大風ハ四方ヨリ日本海ヲ吹キ荒ラ
ス故此ノ海上ハ世界中ニテ最モ颶風ノ多キ場
所ナリサレハ昔セシ、ブランソア、ザウイエル三百
年前始メテ日本ニ渡来セシ宣教師ナリ)ハ日本
ニ行キタル三艘ノ船ノ内ニテ一双ノ破リ来ル
フスラ稀ナリトニシモ此故ナラン就中秋分
ノ頃ニ吹ク風ハ最モ強シ此等ノ為メニ日本ノ
船舶ハ九月五日ヨリ廿五日マテ諸々ノ港ニ碇
泊シテ出帆セザルヲ常トセリ現ニ廿六日ニハ
此等ノ船舶一度ニ出帆シ江戸湾ハ勿論其ノ他

ノ海上モ皆ナ船舶ニテ掩ハレタリ

吾々ハ此実況ヲ見タル証拠人ナリ

支那ノ氣候ハ暑ヲ湿リテ健康ニ害アリ日本ノ氣候ハ北方ハ寒ク南方ハ暑ケレモ常ニ乾キテ健康ニ宜シ和蘭人ノ云フ所ニヨレハ暑中九月ノ暑サハ殆ト日本ニ等シケレモ冬ニハ雪アリト云ヘリ通商ノ為ニ開カレタル箱館ハ支那海ニ碇繋スル我艦隊ノ為メニハ健康ヲ養フヘキ究竟ノ港ナルベシ南西ヨリ吹キ来ル季節風ノ堪ヘカタキ熱ニ苦シミタル乗組人ハ実ニ

ヨヅ島ノ氷ヲ見テ更ニ元氣ヲ恢復シ勇気ヲ増タスルヲナルベシ

上海ヨリ長崎マテ天気好キ中ハ三日程江戸マテハ八日程ニ過キサレモ前ニモ云フ如ク現今支那ト日本ノ通商ハ殆ト皆無ナリ日本ハ今日マテ最モ注意シテ他ノ外國人同様ニ支那人ヲ拒絶シタレハ長崎ニ来ル支那ノ商船ハ毎年僅カニ四五艘ナリ日本ノ絹ノ産出ハ多ケレモ支那絹ヨリハ粗糙ナリ日本茶ノ味ハ支那茶ニ劣リテ少シク苦味アレモ國民ノ自愛心ノ力ニ

テ支那茶ヨリモ上等ノモノト思ヒ居レリ故ニ茶ノ輸入ハ誠ニ少シ此ニ反シテ藥種類ノ輸入ハ日本國中ニ行キ渡リテ著シキ價ナリ毎年支那ヨリ来ル商船ノ積荷ノ重要ナル者ハ支那藥種ナリトイフ

日本ノ女子ハ多少ノ教育ヲ受ク女子ノ学校モアリ又支那ノ婦女トハ大ニ異ナリテ外國人ヲ奥ノ如ク思フ様ノフナシ婚礼シタル女子ハ若キ娘ト區別スル為メニ眉毛ヲ抜キ去リ(抜クト思ヒタルナラシ)酒ト鉄ノ屑トヲ混合シテ製シタル液ニテ歯ヲ黒ク染ムル然レモ自由自在ニ出テ歩キテ支那ノ婦女ノ如ク家ノ奥ニノミ隱シ居ル様ノフナシ

日本ニハ一枚ノ新聞紙モナシ出版ハ総ヘテ禁セラレタリ此一点ハ支那ヨリモ悪シ支那ニハ少ナクトモガゼフト、ド、ペキン(京報ノフ)ト称スル官報アリテ行數モ多ク毎日出版シテ全國ニ頒布セリ日本ノ歴史ハ世界中ニテ最モ面白カラヌ歴史ナリ只々日ヨリ追フテ大君ノ挙動ノ記シタルモノニテ即チ皇帝ハ外出セリトカ皇帝

ハ病気ナリトカ皇帝ハ花ヲ観タリトカ云フ支
ノミナリ宣教師シヤルボアノ著ハセシ歴史
ハ日本ノ真ノ歴史ナリ
日本人ハ何ツレノ階級ノ者ニテモ惣テ熱ヲ好
メリ熱キ湯ニ入ルヿハ國中一般ノ風俗ナリ日
本人ハ血ノ循環ヲ好クシ身体ノ労ヲ医スルニ
ハ睡眠スルヨリモ入湯ノ方好シトス云ヘリ江戸
ノ寺院ニ滞在中付添ヒタル數多ノ役人ハ毎夜
熱心ニ此業(入湯)ヲナシテ夜分マテ騒カサレタ
リ或ル人曰ク夏ノ間ハ往來ニテ行水ヲナシ婦
女ニテスラ戸口ノ前ニテ此支ヲナスヲ意トセ
ストスヘリ然レトモ冬季ニ近フキ追ニ寒冷ヲ感
スル頃ニハ此大道ノ生徒ハ止ムヨシニテ吾々
ハ竟ニ実見セス使節ノ記念中此一支ヲ欠キタ
ルヲ遺憾ナル
日本人ハ自個ヲ示ス場合ニハ鼻ニ指サセリ鼻
ノ尖ハ一個人ノ資格ノアル処ナリ此レ驚クベ
キフニハアラス吾々ハ此場合ニハ胃ノ上ヲ指
スニアラスヤ(此ノ拙者ガナドイフ場合ニ仏蘭
人ハ胃ヲ指サシ日本人ハ鼻ヲ指スヲ云フ也)

日本貨幣ノ単位ハイチブ（一歩ナリ）ドミー（骨碑ノ名）ノ形ニ似タル奇麗ナル銀片ナリイチブミワハメキシコノ一弗ニ当レリ又コバン（小判）ト称スル金貨アリ其價ハイチブ四ツナリ此外ニ長崎ニ居ル和蘭人ハテール（両）ノ紙幣ヲ通用シ又人民ハサペーク（銭）即チ銅貨ノ小額ノ取引ニ使用セリ

支那ハ同等主義ノ行ハルヽ国ニシテタレカデルノ子即チ船住ノ女ヨリ生レタル者ヲ除キテハ誰レニシテモ試験ノ力ニヨリテ官吏トモナリ名誉ヲモ占メ得ヘシ日本ハ之ニ反シテ武家貴族ノ支配スル封建ノ国ナリ日本人民ハ九個ノ階級ニ區別シ居リテ極テ稀ナル場合ノ外ハ其生レタル階級ヲ去ルヿナシ又生来ノ階級ヲ脱セントスル企ハ美徳トハ認メラレマシテ此国ノ公論ハ斯クノ如キ企望ニ反對ナリ人々皆其取生ノ住地ニ安堵シテ充分満足ニ生活シ居リ又其満足ノ心ヨリシテ一種愉快ナル風ヲ生シタルモノト知ラル此ノ畢竟ハ此修飾慾望ノ心ニ乏シキニ由ルモノナランカ蓋シ何レノ国ニ

行キテモ煩ハシキ俗心ヲ度外ニ置キテ斷クマ
テ幸福ナル觀アル人民ヲ見ルヿヲ得サルベシ
諸侯即ケダイミヨウ（大名）ト稱スルモノ貴族僧
侶軍人ハ國民ノ階級中頭初ノ四級中ニ屬シテ
大小刀ヲ帶ルノ權アリ其屬吏及ヒ医者ハ第五
級ニテ一刀ヲサスヿヲ得通常ノ商人卸賣商人
小賣商人工藝人農民、人足、草屋、草師ハ終尾ノ四
級ノ中ニ屬シテ如何ナル場合ニテモ刀ヲ指ス
ヿヲ得ス又皮商賣ヲナス者ハ惣テ不淨ノ者ト
看做サレ市中ニ住居スルノ權利ナク田野ノ中
ニ此者ノミノ住所ニ充テタル村落アリ此ノ不
淨人ハ刑罰ノ犯行人ニ使用セラル日本ノ刑法
ハ非常ニ嚴ニテ些細ノ科ニテモ死罪ニ処セラ
ルヽユヘ其執刀者ニハ不淨人ヲ用ユルヿ未練
ナクテ宜カラレトノ想像ニヨレリ
図フテ人ヲ殺シタル者ニテモ罪人ヲ隱シタル
者ニテモ皆ナ斬ケ首ヲ斬ラルベシサレド將來
歐洲トノ交際ヲ開クニヨリテ此ノ如キ嚴酷ナ
ル日本ノ法律ニ多少ノ輕減ヲ加フルニ至ラン
ヿハ実ニ希望スル処ナリ

日本帝國ニ於テ能ク研究セラレタル学科ハ医学ト天文学トナリ日本島ノ内ニ江戸ニ一所トメヤコ(都)ニ一ヶ所ト都合二ヶ所ノ天文臺アリ吾々ノ江戸ニ逗留セシハ丁度千八百五十八年十月ノ初ニ大彗星ノ現レタル件ナリ然ルニ驚愕若クハ不安心ノ色アル者ハ一人モ見及ハス之ニ反シテ上海ニテ此夏月蝕ノアリタル件ハ決シテ左様ニ落ツキタル者一人モナシ武官ハ月ヲ鼓ヒタル龍ヲ殺ス為メトテ箭ヲ射タリ諸船舶諸寺院ニテハ此ノ怪物ヲ威ス為メトテ耳ノ破ル、マテ銅鑼ヲ鳴ラセリ実ニ怪物ハ此騒キニ恐レタリケン僅カ一時半計リニメ「ヘベ」(神代ニイフ月ノ子)ハ顔ヲ現ハシタルカ無情ニモ此騒動ヲ餘所ニ見テ冷カナル笑ヲ呈セリ又日本ノ医師ハ和蘭ノ書ヲ読ミ深ク其術ヲ講究セリ江戸滞在中ニ名ノ日本医師ハ吾々ノ住スル寺院ニ来リテ江戸市中ニ流行セシ「コレラ病」ノ取扱ヒニ関シテ我カ海軍ノ若キ外科医者等ニ絶ヘズ相議セリ

日本人ハ宗教ノ支ニ就テハ寛待ヨリハ寧ロ全

ク無頓着ト云フベキ方ナリ數世紀ノ間日本ニ諸派ノ宗教並立シテ互ヒニ相爭フ支モナカリキ仏教及ヒ孔子教ハ皆外國人ヨリ入リ來リタルモノナレトモ自國ニ古ヨリ行ハレタル諸種ノモノヲ神トシテ尊崇スル「シントウ」(神道)即チ(神)ノ教ト共ニ存立セリ此ノ寛待ノ餘惠ニ浴シテ昔シ西班牙及葡萄牙ノ宣教師等ハ僅カ數年ノ間ニ上等ノ階級ニ居ル二十万ノ日本人ニ洗礼ヲ授ケテ耶蘇教徒トナセリ日本ノ外ニ斯樣ナル例ハ決シテ見サルベシ所ナルベシサレハ「セレブ

ランソア、サウイエ」ハ「予カ日本人ノ一ツノ話スヤハ其話ノ終リナカルベシ実ニ我心ヲ慰ムル者ハ日本人ナリ」ト云ヘリ然レトモ今ハ全ク一変シテ二百年已降日本ニ一人ノ耶蘇教徒ナシ「タイコー」(太閤)及ヒ「イエヤス」(家康)ノ二帝ハ耶蘇教徒ヲ駆逐シテ餘類ナカラシメ千六百四十年ノ末ニ耶蘇教ヲ固執シテ「シマバラ」(島原)ノ城ニ籠リタル三万七千ノ教徒ハ一日ニメ滅亡セリ近頃仏蘭西ノ宣教師三四名ハリウチユウ(琉球)諸島ニ赴キタリ此群島ハ日本支那ノ両属ナレバ極

東地方ニ耶蘇教ヲ廣ムル手段トシテ先ツ此島ニ赴キ宗教上ノ忍耐心ヲ以テ再ヒ印度ノ大教正（フランソア、サウイエ）ノ遺趾ニ進ミ入ルヘキ時機ヲ待ツモノナレトモ今日迄ハ彼等ノ熱心ハ未タ其効ヲ見ルニ至ラス

此島ニ一種ノ間諜隊アリテ宣教師ト島人トノ交通ヲ妨クルフニ日夜注意セリ宣教師ノ召使人ヲハ絶ヘス交代セシメ宣教師ノ住処ヨリ眺ムヘキ家アレハ門ニモ窓ニモ障壁ヲ立テ又ハ入口ヲ変セリ宣教師ノ田舎ニ行クアレハ成ルヘク道ヲ異ニシ島人ニ出遇ハシメス又宣教師ヨリ問フアレハ何時モ一様ニ「分リマセン」トノミ答ヘシメタリ実地日本政府ヲ見タルフナク又欧洲諸國ガ日本政府ニ恐怖ヲ抱カシメタルフヲ知ラサル人ハ左様ノ取為ヲ解スル能ハサルヘシ大君ノ目ヨリ見ル時ハ宣教師ハ外國ノ委員ナリ日本ノ弱キ境遇ヲ欧洲人ニ内通シテ襲撃ノ便利ヲ予フル間諜ナリ日本人ハ今日ニテモ二百年前ト全ク感覚ニテ少シモ改進シタルフナシ日本人ハ大君ニ言上シタル

西班牙船將ノ有名ナル返答ヲ今尚ホ記臆セリ
実ニ此ノ返答コソハ耶蘇教ノ追放ヲ惹起シタ
ル根原ナレ太閤一日欧洲ヨリ新タニ到着シタ
ル西班牙軍艦ノ船將ト誇話シテ西班牙國王ノ
領地ノ廣キニ驚キ左ハカリ大ナラサル本國ヲ
有スル貴國ニシテ如何ニシテ斯ク迄廣キ領地
ヲ占メタルヤト問ヒタルニ西班牙ノ船將ハ何
心ナク「誠ニ易キフナリ」トテ夫ヨリ土地併呑ノ
策ヲ語リ先以テ同國ノ教徒ヲ其目的ノ國ニ送
リ徳義ト辯說トニヨリテ偶像教ノ人民ヲ感化

セシメ「マドリー」ノ朝廷ハ其間ニ充分ノ用意ヲ
ナシ心ヲ自國ニ傾クル新教徒ヲ得タル上ニテ
多少ノ軍隊ヲ遣ハシ遂ニ我領地ニ併ハスルト
ノ事実ヲ委シク語レリ
此ノ無勘弁ナル返答ハ深ク日本君主ノ胆臆ニ
浸入シ去ルフナク忽チ耶蘇教ヲ撲滅スルノ決
心ヲ起シテ少シモ仮借スル処ナキ嚴命ヲ下シ
西班牙及ヒ葡萄牙ノ教徒ハ日本ヨリ放逐シ日
本ノ教徒ハ改宗スルカ死スルカノ外ニ他ノ手
段ナカラシメタリ斯クテ「セレ、フラレフア、ザウ

イエノ囚徒ニナレ得タル譽レアル支蹟モ其迹ヲ烟霧ニ蔽セレメヌ着ルベシ日本ニテ耶蘇教ヲ撲滅セタル事余ハ純然タル政支上ノ革命ニシテ宗教トハ毫モ関係ナキモノ也

日本ニハ常備兵トシテモノナシ大小差シタル人ハ平時ニハ諸侯又ハ奉行ノ従者トナリ戦時ニハ兵隊トナルモノナリ此人々ハ一箇人ニ就テ云フ件ハ勇壮ノ人ナレ共歐洲ノ兵器ト歐洲ノ兵術ニ抗シテ戦フハ難カルベシ或ル人ノ言フ所ニヨレハ此人迚モ四来ノ兵法モテ我々ニ敵スルヲ得ズト知リタルヨリ近来頻リニ歐洲ノ戦略書ヲ読ムト云ヘリ現ニ歐洲ノ兵式ニ倣ヒテ目下既ニ其運動ヲ起シタリ即チ弓矢ニテ三ニ銃及ヒ砲ナニ敵スル能ハズト知リ現今ノ歐洲航海術及ヒ軍術ニ通達セレヲリ来メタリサレドモ真ノ兵隊ヲ得シトスルニハ先ヲ以テ下駄カ履シタル袴ヤダラダラシタル長キ衣服ヲ廃セサル可カラスナレ共日本人モ其不可ナルヲ知リテ此ホノ無駄物ヲ廃止スルヲ始メタリ元来日本人ハ支那人ノ

如キ独尊以テ他ノ人民ニ勝リタル者ナリト信ズル焉ラシナ謬見ナリ日本人ハ支那人ヤ朝鮮人ニ優リタルノミニ以テ足レリトセス尚ホ欧洲諸國ト公等ト立ムレトノ期望セリ

日本ニテ切腹ハ今日ニテハ其真似ヲ為ス迄ナリ腹ノ切ル真似ヲナシタル位自ラ喉ノ機関ヲ切ルカ又ハ其支人ニ首ヲ斬ラシム国ヨリ時候絶レノ古例ナルヲ勿論之然レモ欧洲ニテ踏舞ヤ撃剣ニモ教師アル如ク日本ニテモ今尚ホ切腹ノ術ニ教師アリ此術ヲ知ルヲハヨキ教育ノ

一部ニテ若キ貴族ナドハ最モ尊ベリ切腹ハ自殺セリトノ慣ヲ以テ自分始メ子孫ノ名誉ヲ保タレムル手段トナルヲ妻レ下ニ記スル話ハ度々聞ク処ニテ実ニ切腹ノ性質ヲ現ハレタルモノナレモ是レハ余程古キ時代ノ話ナリ或ル日二人ノ紳士皇帝ノ食堂ニ給仕セシ二人階子段ニテ出テヤヘリ一人ハ空椀ヲ持シテ段ヲ下リ一人ハ盛リタル椀ヲ皇帝ニ進ムルタメニ段ヲ昇リシカ如何セン両人ノ刀ハ相觸レタリ然ルニ降リタル紳士ハ已レ辱シメラレタルモ

ノトレラ刀ヲ抜テ切腹セリ一方ノ紳士ハ急キ
段ヲ上リテ其梳ヲ皇帝ノ膳ニ供ヘ相手ノ気息
アル内ニ遇ハントキ遽タヾレク段ヲ下リ給仕
ノ為ニ伺レヌトテ其相手ニ深ク謝シ共ニ同シ
ク切腹セリ（何ノ詮カ）ト吾々江戸ヲ出発スル
時フラウイニー氏ハ吾々ノ常ニ好マヌ又奇異
ナル挙動ノシナセシカコダマヤ（児玉カ）ト云ヘ
ル役人ニ腹切ルヘキ有様ヲ示シ玉ヘト請ヒタ
レハ此ノ狩猟ナル役人ハ中々刀ヲ抜カス只タ
群集ノ人々ト共ニ一笑セリ我カ同僚ノ此役人

ニ腹切ラスベシト企テタルハ実ニ二十年モ遅
カリシ

江戸ニアル皇帝ノ宮殿ノ周囲ニハ清澄ナル流
水ヲモテ満ラタル幅廣キ堀アリ其岸ニハ好ク
手入セシ土手アリテ青草ハ茂リ又枝ヲ地上ニ
垂レタル松樹ノ類アリ其景恰モ英国ノ公園ノ
如シケルゼグ及ヒオヾリイノ両少佐ハ一日此
周囲ヲ一周セシガ一時四十分ヲ費ヒタレハ大
凡直径十キロメートルノ距離ナラントト云ヘリ
サレハ大君ノ宮殿ノ周囲ハ二里半アルベシ

下田にても江戸にて鶴ト黑キ鴉ハ數多居レ
リ日本人ハ此等ノ鳥ニ少シモ構ハス我カ同行
ノ一人ハ下田にて此鳥ヲ一羽折ケタルニ年老
ヒタル坊主ハ遠タヽレク火ヲツケタル烟管ヲ
咬ヘナカラ駈ケ来リテ鳥ノ亡骸ニ向ヒ祈禱ヲ
ナシ又鳥ハ決シテ悪シキフナサスト頻リニ
說ケリ

江戸湾ニハ鰯其他ノ鮮魚ヲ運シ又ハ運ト来ル
小形ノ漁船ハ港内ニ充滿セリ日本政府ハ禁止
政略ノ確守スル政府ナレハ船舶ノ形ト大サト

ヲ嚴重ニ取極メテ決シテ沿岸ヲ離レテ大洋ニ
出ツルフヲ得サラシム其昔ハ支那海岸ニテ破
船スルカ又ハ臺湾若クハフイリツピル群島ヘ
吹流サレタル日本人ハ和蘭船ニ乘ウサレハ再
ヒ日本ニ帰ルヲ得スト其ニテモ嫌疑ヲ受ケテ生
涯(我邦ナレバ)高等警察ノ監視トニフ様ナル取
締ノ下ニ置カレタリ然ルニ今日不思議ニモ此
取締ノ稍々寛ロナサル究屈ナル目ニハ遇ハ
スナレハ欧洲ノ船ニ海上ニテ救ハレ本國ニ送
帰サレタル日本人ヲ政府ハ好意ヲ以テ遇スル

フサナシ

日本人ハ阿片ハ支那ノ人民ニ恐ルベキ災害ヲ惹起シタルヿヲ熟知セリ故ニ大君ノ政府ハ此ノ毒葉ヲ日本ニ輸入スルヿヲ嚴禁シ四ケ國ノ条約ニ明カニ此ノ箇条ヲ記入セリ

日本政府ハ暹羅王國ノ如ク順序ヨキ方法ト國憲ノカトニ因リテ存立スル二個ノ主権者アル一種特別ノ政府也暹羅ニテハ第一ノ王ト第二ノ王トアリテ共ニ高権ヲ有セリ日本ニテハ國務ノ皇帝ト教務ノ皇帝トアリ即チ大君トミカド是ナリ欧洲人ノ誤テ日本皇帝ト称スル大君ハ其実ミカドノ代人ニ過キスミカドハ日本ノ真正ノ主権者ナリ古キ帝家ノ代表者ナリ又神ノ子孫ナレハ世俗ノ事務ニ從事シテ雑務ヲ挙ケテ其臣下ニ委子テレタル也又大君ト称スルモノハ起源ヲ尋ヌレハ宮臣也生来特有ノ地位ヨリ墜ケテ大権ヲ失ハレタル王家ノ重臣也其大権ヲ失レタル最后ノ日本メロヴィレジアレ（メロヴィレジアレトハ紀元四百四十八年ヨリ同七百五十二年マデ仏蘭西ヲ統御シ其宮臣

ノ為メニ奪ハレタル王家ナリ）ハ頭髪ヲ断ラ僧院ニ幽閉マル代リニ（此時代ニ髪ヲ切リタル者ハ王位ニ上ルコトヲ得マジクロヴィンレアンノ末王ハ其宮臣ノ為メニ斯クセラレヌ）美麗ナル殿堂ヲ造リテ王室ニ奉リ皇帝ヲ神ト崇メラ斯ル地位ニヲ神明ノ胤ニ適当ナルモノナレト上下ニヲ鮮セシメタルモノ也斯クテ新王家ハ其ノ位ニ就キ田君ヲ尊敬シ田ニ依リテ日本ノ無限ノ主権者タルヲヲ認メハ認メラルヽモノヽ実権ハ全ク奪ヒ取レリ現今日本政体ノ起原ハ

実ニ右ニ述フルカ如シ即チ「ミカド」ハ今日ニテモメヤコ（都）ニ住ハセラル此地ハ日ノ子孫ノ代々住セラレタル古キ都ナリ都内ニ美麗ナル国多シ「ミカド」ハ此地ニ住ハセラレテ全盛ナル臣下（大君ノヲヲ）ヨリ虚名ノ尊敬ヲウケ居ラレ又廣キ宮殿ノ裡ニ天高ニテ生活セラルレ厳重ナル大君ノ政略ニ壓セラレテ宮殿ノ外ニ出ルヲ叶ハス宮廷ハ歌人音樂師技術者天文家ナドノ出會所ニ過キサルモノトナレリ又タ「ミカド」ノ食セラル、米ハ一粒ヲ、精選セレモノナリ

衣服ハ一度着セラルレハ再ヒ用ヒラレス又一度用ヒラレタル盃ハ誤テ下賤ノ者ノ唇ニ觸ルヽノ恐アリトテ忽チニ破壞スル也古ハ「ミカド」ハ帝座ノ上ヽ始終座シラ少シモ御身ヲ動カセラレス其動カセ玉ハザルハ帝國ノ安全ヲ表スルモノニテ若シ玉体ヲ動カレ又ハ御顔ヲ回ラサルヽアレハ其向カセ玉ヘル方ニアタル日本ノ地ニ大ナル不幸ヲ生スルト云ヘリ然レモ只一人ノ「ミカド」モ始終御身ヲ動カシ玉ハス帝座ノ上ヽ居玉フ度叶ハサレハ日本ノ諸邦ニハ常ニ不幸ノ絶間アルフナカリシカ今日ニテハ其中ヲ取リ帝座ノ上ニ帝冠ヲ置キヲ帝國ノ安全日本ノ平和ヲ證スルフトセリ実ニ其効アリテカ二百年以降日本ハ太平無度外戰モ内戰モ一度モ國ノ安寧ヲ害シタルフナシ

トカドノ実権ヲ專領セル新朝（即チ大君ノ朝ヲイフ）ハ今度ハダイミヨートト称スル諸侯ヲ苦ムル度トナレリ諸侯ハ祖先ヨリ相傳ヘテ日本ノ戰國ニ至リ帝國ノ土地ヲ斯有シ各々其領地ニ小朝廷ヲ開キ又配下ノ屬國ヲ治メ居レリ此等

ノ諸侯ハ動モスレハ独立セントシ又野心ヲ起
スニヨリ江戸ノ朝廷ハ深ク猜忌シ遂ニ諸侯ノ
権力ヲ弱メ若クハ減スル為ニ最モ圧制ナル最
モ厳酷ナル政略ヲ実施スルニ至レリ極東政支
家ノ此政略ハ(ルヰ)ナ一世ニ優レリ(ルヰ十一世
ハシヤルノ七世ノ子ニメ仏国ノ王権ニ抗スル
当時ノ諸侯ヲ制服セシ人ニ)数十年ノ間絶ヘス
実行セシ結果ニヨリ諸侯ハ遂ニ服従シ今日ニ
テハ僅カニ之国ノ外見ヲ存スルマテニテ其実
大君ノ臣下トナレリ江戸ノ朝廷ハ諸侯ノ行政

ヲ負担スヘキ委員ヲ各諸侯ノモトニ派遣シ又
諸侯ハ二ヶ年ノ内一ヶ年ハ必ス江戸ニ参勤セ
サルヲ得サルヲ也此参勤ハ諸侯ヲ貧弱ナラシ
ムル手段ニ外ナラス又諸侯ノ重臣等ハ互ニ敵
視スル者ニアラサレハ一時ニ其国ニ住スルヲ
ヲ許サレス互ニ敵視スル者ヲ共ニ其国ニ住セ
シメテ益々不和ヲ釀サレメ絶ヘス軋轢ヲ生ス
ヘキ原因ヲ作リ傚セリ諸侯ノ妻娘ナド全家族
ハ人質トメ江戸ニ置カレ大君ノ命令ニ服従ス
ルヲヲ表セリ又間諜ハ常ニ諸侯ヲ狙ケ廻リテ

些末ノ挙動マラ悉ク大君ノ朝廷ニ報告セリ斯ク之テ漸次ニ別ニ著シキ動揺モ起サズニ嚴シキ慣行ノ結果ニテ日本ハ今日ニテハ全ク封建ノ虚影ヲ存スルノミトナリテ政権上ニ於テモ行政上ニ於テモ帝國内ニ全ク中央集権ノ行ハル、事トナレリ然レドモ世界ニ終ナキ者ハナシ大君ノ朝モ帝國ト共ニ追々年老ヒタリ「ミカド」ノ倨傲ナル代人ニシテ軍務ノ長日本ノ治者ナル全國ノ大君モ今度ハ自己ノ順番トナリ儀式ヤ虚礼ノ細ニ掩ハレテ如何トモスル能ハス遂ニ「ミカド」ニ施シタル前例ニ倣ヒテ帝國ノ政務ハ餘リニ汚雑ナリ大君ノ如キ種族ノ人ニハ優柔無変ノ生活ヲソ適当ナレト勤ムル者アリテ今日ニテハ大君ハ國務ヲ御大老ト称スル世襲ノ首相ニ委托シ居レリ此首相ハ數代ヰ重ナリテ王位ニ近ク生息セシモノ也大君ハ徒ラニ種々ノ儀式及ヒ數多ノ謁見ナドニ忙ハシク其日ヲ送リテ江戸ノ宮殿ヲ出ルヿハ一ケ年ニ三四度祖先ノ位牌ヲ拝スルニ止マレリサレハ英國ヨリ贈リタル軽装美麗ノ王艦ヲモ蓋シ見タル

フナカルベシ英國人ハ日本政治ノ實況ヲ知ラ
スメ天盃ノ贈物シタルモノ哉カヽル情況ナレ
ハ世襲ノ宮臣ナル御大老ハ他日必ス其握リタ
ル實權ニ相當セル名義（即チ王位）ヲ得テ遂ニ都
モ江戸モ捨テヽ今度ハ大阪ニ第三ノ朝ヲ開
クモ計リカタシ
「ミカド」ノ代人ナル國務皇帝ハ「タイクン」（大君）ニ
シテ又「シヨウグン」（將軍）ナリ「シヨウグン」ハ軍務
ノ長ナルニヨリ軍隊ヲ指揮シ「タイクン」ハ賞罰
ノ權アルユヘ日本ノ主治者ナリ日本ノフヲ記
シタル書ハ惣テ「シヨウグン」ノ名義ヲ呼ヒナカ
ラ「タイクン」ノ變ヲ記セリ是レ故ナキニアラス
世襲首相ノ老練ヲ以テ軍務ニ屬スル活潑ナル
元素ヲ漸次ニ消滅セシメタレハ吾々ノ日本滞
留中ニモ「タイクン」ノ聞クノミニテ「シヨウ
グン」ノフヲハ聞カサリシ「シヨウグン」トイフ語
ハモハヤ其實ヲ失ヒタレハ全ク意味ナキ語也
現任ノゴタイロー即チ世襲首相ノ名ハイイ、カ
モンノ、カミ（井伊掃除頭）ト云ヘリ
下田、大阪、長崎、函館ナヽノ如キ都府ハ諸侯ノ領

地ヨリ分割セシモノニテ皇帝ニ屬スル都府ト
イフ名義ヲ以テ江戸ノ朝廷ノ宜轄也奉行ヲ送
リテ治メシメ又是等ノ都府ニハ二人ノ奉行ア
リテ首府ヨリ交代シ一人ツヽ順番ニ一年代リ
ニ江戸ト任所トニ住居セリ此奉行等モ諸侯ト
同様ニ嚴シク監督セラレ家族ハ江戸ニ人質ト
ナレリ此支情ヲ知ル者ハ江戸ノ役人所ノ甚タ
廣キニ驚カサルベシ恐嚇政略ノ為メニ永久ノ
擒トナリタル夫人令嬢ハ吾々ノ遊歩セシトテ
木ノ格子ノ内ニ半分身ヲ隱シテ珍ラシゲニ眺
メ居タルカ其顔ヲ見タル吾々ノ心ニハ一種ノ
悲シキ感覚ヲ起シタリ但シ日本人ノ性質ニ天
然備ハリタル安穏ニシテ苦悩ナキ喜ハシキ景
況ハ此擒トナリタル人々ニサヘ自然ニ現ハレ
居タリトイフヿハ一言シ置カサルヲ得ズ
ワンヂニマシノ海峡ハ薩ケ州ノ南ニアリ薩ケ
産ハ江戸ノ朝廷ニ藩屬スル諸侯ノ内ニテ最モ
強大ナルモノニテ今日ニテモ尚ホ多少ノ勢力
アリ歴代ノ大君モ亦此産ニハ多少ノ敬礼ヲナ
シ又時々ハ其家族ノ内ヨリ妻ヲ迎ヘタリ琉球

諸島ハ実ニ此侯ニ隷屬セリ吾々ノ江戸滞在中
今ノ薩ナ侯ハ專擅猛暴ノ人ニテ世俗ニハ「薩ナ
侯ニ仕フルヨリハ鬼(外国人ノ)ニ仕フル方優
レリ」ト云ヘリ聞ク処ニテハ薩ナ侯ノ迚ニハ古
キ習慣ナル切腹ヲ今日ニテモ尚ホ固ク維持セ
リト云ヘリ又薩ナ侯ヲ誹謗スルハ前大君ヲ称
揚スル為ニテ薩ナ侯ヲ譏リテ其反對ニ前大君
ヲ甚タ穏厚ノ人ナリト称セリ然ルニ長崎ニ居
ル和蘭人ハ熱心ニ薩ナ侯ノ保護ヲナセリ和蘭
人ノ云フ所ニテハ江戸ニテ薩ナ侯ノ評判宜シ

カラサル訳ハ此侯ノ領地ニハ間諜ノ入ルヲナ
ク又國内ニテ見付タル他國人ヲ用捨モナク殺
害スル為ナリ然レトモ他支ハ扱置キ間諜ヲ許サ
ストテ別ニ大ナル罪ニモアラサル也又和蘭海
軍ノ士官等ハ鹿児島ニテ薩ナ侯ニ出會タリシ
カ同侯ハ艦内ニ来リテ処々ヲ隈ナク検査シ幾
々誇話シ又親切ニ士官等ヘノ便利ヲ計レリ衣
服ハ木綿ノ質素ナルモノニテ従者ト異ナル所
ハ只タ丁寧ナルヲト能ク物ヲ知リ居ルヲノ外
ナシ云々ト云ヘリ

日本ノ中央政府ハ珍ラシキ勢カアル政府ニテ
今日ニテハ無限ノ権柄ヲ全國ニ振ヘリ惜カナ
吾々ハ此度ニ関シテ不充分ナル報告ヲ得タル
ノミナレハ能ク詮議スレハ不信用ノ心ヲ起ス
モノ多シ國務皇帝ハ全國ニ君臨スレトモ自ラ政
事ヲナサス「コタツロ」ト称スル世襲ノ首相ア
リテ政事ニ任セリ又御大老ヲ補佐スル大評議
官アリテ其人員ハ六名也其他ニ十五名ヨリ組
織セシ評議官アリテ法律制定ノ准備ヲナセリ
又別ニ四省アリ陸軍省即チ國防ヲ司ル役所ハ

四省中ノ尤モ重キモノニテ日本ノ独立ヲ維持
スルハ國ノ要務ナルヲ勿論ナレハ此省ノ高官
ハ五十人以上アリ官有地事務所ハ諸侯ノ領地
ヨリ分割シテ皇帝ニ属セシ都府ト江戸邸内ヲ
治ムルモノ也外務省ハ大臣六人アリテ今日迄
ハ誠ニ狭少ナリシ内外交渉ノ事務ニ任セリ警
保省ハ諸省ノ末席ナレトモ事務ノ最モ繁多ナル
処ニテ其大臣等ハ全國ニ満布セル間諜ヨリ送
リ来ル死数ノ報告ヲ閲讀セサルベカラズ現ニ
吾々モ此省ノ人々ニ少ナカラサル手数ヲカケ

タリ吾々ノ支ニ関シテ書留メタル扇ハ總テ此
省ニ送ラレ又タ日出ヨリ日没マテ吾々ノナシ
タルコトハ細大トナク告知セラレタルナラン
和蘭知支ハ近来両度マテ江戸ノ朝廷ヲシテ独
立主義ヲ去リ外國ト全ク交通ヲ絶ケタル古キ
政略ヲステシムルコトニ尽カセリ千八百四十五
年ニギリヨームニ世陛下（和蘭皇帝）ハ其傳令官
ヲ以テ親書ヲ大君ニ送リタリ此親書ハ清國ノ
已ニ外國ト通商ヲ開キタルコトニ関シ日本政府
ノ注意ヲ呼ヒタル者也又航海ノ進歩ハ支那海

ニ止マラスシテ必ラス日本海ニ及フヘク蒸気
ノ力ハ追々ニ距離ノ遠キヲ消滅スヘク又政洲
ノ工藝商業著シク進歩シタレハ勢ヒ必ス他ノ
消費場ヲ求ムルニ至ルヘキニヨリ飽迄モ厳重
ナル孤立主義ヲ維持セントスルハ頗ル危険ナ
ル旨ヲ皇帝ニ忠告シ此危険ヲ避ル慥カナル手
段ハ外國ト和親通商ヲ結ハルヽニアリト勧メ
タレトモ江戸ノ朝廷ハ此ノ親切ナル勧告ヲ毫モ
聞カサルモノヽ如クナリシ太沽（北支耶）砲撃ノ
声ハ大君ノ政府ヲシテ其孤立主義ヲ捨テシム

ルニ多少ノ影響ヲ与ヘタルニ相違ナキモ人若シ当時調印セシ条約ヲ結ブニ際シ日本政府ニ幾分カ恐怖ノ情アリシトイハヽ是レ恐怖ニハアラス日本政府ノ自ラ悟リ得タル結果ニメ他年一日威力ニ迫ラレテ到底許容セサルベカラサルモノヲ自ラ進レテ与ヘタルモノナリト認メサルヲ得サル也